

病む人の
期待を
英雄

初代院長 入江英雄著

NHO Kyushu
Cancer Center

診療のご案内

2025



独立行政法人国立病院機構

九州がんセンター



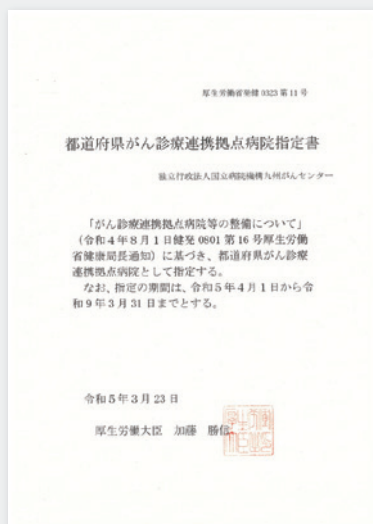
九州がんセンターが米国Newsweek誌による
“世界最高の病院”のがん部門で世界トップ病院に
5年連続で選ばれました！



当院が、米国週刊誌「Newsweek」による世界基準の優良な医療機関を評価したランキング「World's Best Specialized Hospitals」のがん部門において、世界のTop200病院に5年連続(2021、2022、2023、2024、2025)ランクインしました。このランキングは、世界の4万人以上の医師、病院経営者、医療専門家による調査を行い、名高い医療専門家達の国際委員会によって決められています。

今後も皆様に最良の医療を提供できるよう職員一丸となって取り組んで参ります。

<https://www.newsweek.com/rankings/worlds-best-specialized-hospitals-2025>



都道府県がん診療連携拠点病院



病院機能評価認定



ISO15189認定



Contents

■ 基本理念・基本方針	2	● 肝胆脾外科	38
■ 院長あいさつ	3	● 婦人科	39
■ 幹部紹介	4	● 乳腺科	40
■ 病院概要	5	● 頭頸科	41
■ 医療連携のご案内		● 泌尿器・後腹膜腫瘍科	42
● 初診予約について	6	● 整形外科	43
(外来担当医一覧	9)	● 形成外科	44
● 放射線治療依頼・予約について	12	● 消化管・内視鏡科	45
● 放射線検査予約について	13	● 皮膚腫瘍科	46
● カルナコネクトのご案内	18	● 歯科口腔外科	47
● がん相談支援センター	19	● 画像診断科	48
● セカンドオピニオン外来について	20	● 放射線治療科	49
● 治験・臨床試験について		● 緩和治療科	50
～当院の取り組み～	24	● サイコオンコロジー科	51
● がんゲノム外来	26	● 腫瘍循環器科	52
● がん遺伝外来	28	● 糖尿病・代謝科	53
● 訪問看護ステーション	30	● 老年腫瘍科	54
■ 診療科のご案内		● 麻酔科	55
● 血液・細胞治療科	32	● 病理診断科	56
● 消化管・腫瘍内科	33	● 臨床検査科	57
● 消化器・肝胆脾内科	34	● リハビリテーション科	58
● 小児・思春期腫瘍科	35	■ 九州がんセンター連携・協力施設について	59
● 呼吸器腫瘍科	36	■ 機能・学会等認定施設取得一覧	60
● 消化管外科	37		

基本理念

私たちは「病む人の気持ちを」そして「家族の気持ちを」尊重し
温かく、思いやりのある最良のがん医療をめざします

基本方針

1. 患者さんの人権尊重

患者さんの知る権利と自由意志などを保障し尊重いたします。

2. 診療の充実と強化

九州におけるがん医療の基幹施設として、診断、治療の向上と先進的ながん医療をめざします。

3. 臨床研究の推進

基礎および臨床研究を積極的に推進し、がん医療の発展に貢献します。

4. 教育・研究の充実

がんに関する教育、研修機能を充実させ、医療従事者の質の向上を図り、将来のがん医療を担う人材を育成します。

5. 情報の収集と発信

国内外の最新のがんについての知見や情報を収集し、メディアやソーシャルネットワーク等を活用して、適正な医療情報を提供します。



院長あいさつ

“がん”ならやっぱり 九州がんセンター

時代のニーズに応える
がん専門病院を目指して

九州がんセンター 院長

森田 勝

当院は、1972年に九州で唯一のがん専門診療施設として開設され、初代入江院長が「病む人の気持ちを」、2代森脇院長が「家族の気持ちを」という言葉を残されました。この精神を50余年にわたり脈々と受け継ぎ、診療・ケアを行ってきました。

現在、身体にやさしい胸腔鏡・腹腔鏡下手術に加え『ロボット支援下手術』を導入するとともに、ゆったりとした外来の『化学療法センター』、最高機能の放射線治療装置3台を有する『高精度放射線治療センター』、PET/CT等を備えた『画像診断部門』などを設け、“高度な診療を日常診療として”行っています。さらに、がん遺伝子パネル検査を実施する体制を整え『がんゲノム医療』を行うとともに、安全で有効な治療法・新薬を開発するために『治験・臨床試験』を推進しています。一方、がん患者さんやご家族をサポートする体制として、『患者・家族支援センター』では、多様なご相談にむけ“がん相談支援センター”や、患者図書室、患者サロン、アピアランスケアルームなどを備えています。さらに、外来・入院・在宅と「切れ目ない診療・ケア」を実践するために『入退院支援センター』で入院前から退院後の生活を見据えた診療を行うとともに、全国のがんセンター初の『訪問看護ステーション』では、ご自宅での生活をサポートしています。

社会は急激に変化し不確実な時代を迎える中で、がん診療はより専門化・複雑化しています。だからこそ今、職員一丸となって“時代のニーズに応えるがん専門病院”を目指しています。そのうえで、患者さんやご家族から“がん”ならやっぱり九州がんセンターという声がいつも聞こえるような病院になりたいと願っています。

職員一同、“患者さんのために”、今、できることを常に考え、そして行動していきます。何卒、よろしくお願い申し上げます。



幹部紹介



院長
(消化管外科)

森田 勝



副院長
(頭頸科)

益田 宗幸



副院長
(泌尿器・後腹膜腫瘍科)

中村 元信



臨床研究センター長
(消化管・腫瘍内科)

江崎 泰斗



統括診療部長
(消化器・肝胆膵内科)

杉本 理恵



事務部長
鎌田 哲也



看護部長
岸田 佐智子



薬剤部長
松元 俊博

病院概要

病 院 名	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター
所 在 地	〒811-1395 福岡県福岡市南区野多目3丁目1番1号
建物概要	建物面積 15,878㎡ 延べ面積 32,468㎡ 駐車場設備 400台
院 長	森田 勝
病 床 数	411床（一般411床）
所 管	南区保健所（福岡・糸島保健医療圏）
診 療 科	呼吸器腫瘍科、消化管外科、婦人科、血液・細胞治療科、頭頸科、乳腺科 消化管・腫瘍内科、消化器・肝胆脾内科、泌尿器・後腹膜腫瘍科 小児・思春期腫瘍科、肝胆脾外科、整形外科、消化管・内視鏡科 皮膚腫瘍科、形成外科、歯科口腔外科、画像診断科、放射線治療科 緩和治療科、サイコオンコロジー科、腫瘍循環器科、糖尿病・代謝科 老年腫瘍科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、リハビリテーション科
指定医療	労災保険指定医療機関、指定小児慢性特定疾病医療機関、難病指定医療機関 指定自立支援医療機関（精神通院）、生活保護法指定医療機関 母子保健法指定養育医療機関、結核指定医療機関、被爆者一般疾病医療機関 戦傷病者特別援護法指定医療機関

都道府県がん診療連携拠点病院

厚生労働大臣より「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定

病院機能評価認定

日本医療機能評価機構による病院機能評価 機能種別版評価項目3rdG:Ver2.0 認定

ISO15189 認定

日本適合性認定協会より「ISO15189」に認定

WORLD'S BEST SPECIALIZED HOSPITALS 2025

米国週刊誌「Newsweek」による世界基準の優良な医療機関を評価したランキング「World's Best Specialized Hospitals」における Oncology（がん）部門において、世界トップ病院に5年連続ランクイン

初診予約について

1. 患者さんのご紹介について

当院では原則、医療機関からのご紹介に限り初診をお受けしております。

患者さんの待ち時間の短縮と、診療情報の事前確認による診療の質向上のために、**すべての診療科で初診患者さんの受診日・来院時間を予約制**とさせていただきます。

診療申し込みをしていただきましたら受診予約はできるだけ早く返信しております。お手数をおかけして申し訳ありませんが、下記の手順にて事前の診療情報提供と受診日の予約をお願いいたします。

お急ぎの場合、事前予約ができない場合は当日依頼による診察も受け入れておりますので、下記「地域医療連携室」に直接ご連絡ください。

※放射線治療科、画像診断科（検査予約）はご紹介の方法が異なりますので、「放射線治療依頼・予約について」（P12）「放射線検査予約について」（P13）をご参照ください。

※緩和ケア外来（緩和治療科、サイコオンコロジー科）は当院代表番号 092-541-3231 にお電話いただき、担当医師に直接お問い合わせください。

※老年腫瘍科、歯科口腔外科、腫瘍循環器科、糖尿病・代謝科は院外からのご紹介を受け付けておりません。

2. 受診予約の方法・手順

- (1) 「診療予約申込書」に必要事項をご記入いただき、**診療情報提供書**と併せて地域医療連携室へ**受診前平日 17 時まで**に FAX にてお送りください。（FAX できない場合は下記のお電話にてお問い合わせください。）

診療予約申込書は P10 のサンプルをコピーしていただくか、当院ホームページ「紹介患者の初診について」のページよりプリントアウトしてご使用ください。

※「診療情報提供書」は当院の書式を使用していただく必要はございません。

地域医療連携室 TEL（直通） 092-542-8532

地域医療連携室 FAX（直通） 092-541-3390

- (2) 平日（月～金）の 17 時までにお送りいただいた場合、内容確認後に**受診日と来院時間**を記載した「**紹介患者予約通知書**」を当日中に FAX で返信いたします。

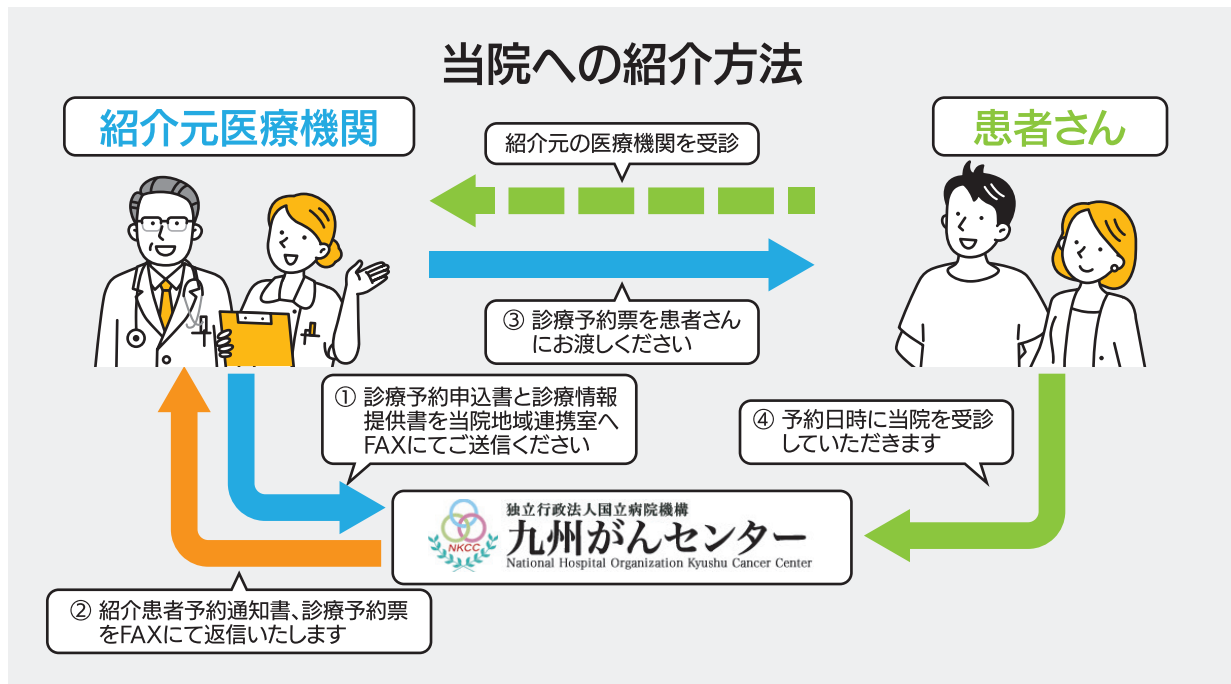
受診日の確定に時間を要する場合は、当日中にその旨をご連絡いたします。

- (3) 「紹介患者予約通知書」の下半分は「**診療予約票**」になっております。

お手数ですが切り取って患者さんにお渡しいただき、受診当日にお持ちいただくようご説明ください。

患者さんに診療予約票をお渡しできない場合は予約日と予約時間を患者さんにお伝えください。

予約確定後に内容を変更する場合など、患者さんと当院連携室の間で直接やり取りをさせていただくこともありますのでご了承ください。



3. 電子画像データ（CD-ROM）の事前送付のお願い

事前に担当医が画像を確認することにより診療の質の向上につながり、また受診当日の画像データ取り込みに要する患者さんの待ち時間が短縮されることから、**電子画像データ（CD-ROM）の事前送付**も受け付けております。

また、事前にお送りいただける際は、受診当日に画像が届いていない行き違いを防ぐために、**診察予約日の2診療平日前までに**当院に届きますよう、ご発送をお願いします。

事前送付をされない場合は、患者さんに電子画像データをお渡しいただき、当日持参していただく様にお伝えください。

電子画像データ送付の方法

- (1) 上記の方法にて、地域医療連携室経由で診察予約をお願いします。
- (2) 紛失防止のため、配達状況が確認できる方法（「レターパックプラス」など）にて、『**地域医療連携室**』宛にご送付をお願いします。

送付先

九州がんセンター 地域医療連携室
〒811-1395 福岡県福岡市南区野多目3丁目1-1
TEL 092-542-8532

4. 患者さんの受診当日の流れ

初診当日の受診までの流れをご紹介します。

- (1) 予約時間に、1階正面入口すぐの総合受付にお越しいただきます。
- (2) 備え付けの診療申し込み書にご記入いただき、**予約票、診療情報提供書、保険証またはマイナンバーカード、限度額適用認定証（お持ちの方のみ）**と併せて受付へお渡しいただきます。
- (3) 総合受付より外来基本カードと問診票（持参されていない方）、感染症検査の同意書、医学研究への活用に関する同意書をお渡しいたします。
- (4) 問診票と同意書にご記入、ご署名いただいたうえ各ブロックの受付に提出いただきます。

上記の通り、初診の方は診療の前に**問診票**をご記入いただいております。

スムーズな受診のため、当院ホームページ <https://kyushu-cc.hosp.go.jp/> より、事前に患者さんに問診票をダウンロードしていただき、ご記入のうえ診療当日にご持参いただくことをおすすめしています。

問診票が必要とされる方

- 当院を初めて受診される方
- 以前の受診より期間が1年以上空いている方

5. お問い合わせ先

患者さんのご紹介や、その他ご不明な点などございましたら、当院地域医療連携室までお問い合わせください。

お問い合わせ先

九州がんセンター 地域医療連携室

〒811-1395 福岡県福岡市南区野多目3丁目1-1

TEL（直通） 092-542-8532

FAX（直通） 092-541-3390



Ⅰ 外来担当医一覧

2025年5月1日より

外来	診療科		月	火	水	木	金
A	頭頸科		<休診日>	藤 賢史* (初) 本郷／原 (再)	<休診日>	益田 (初) 山内／益永 綿貫 (再)	山内 (初) 藤*／大森 平野 (再)
	小児・思春期腫瘍科		中山 秀樹* 古賀 (友) (初・再)	古賀 (友) 野口 (初・再)	中山* 古賀 (友) (初・再)	古賀 (友) 野口 (初・再)	中山* 古賀 (友) (初・再)
	泌尿器・後腹膜腫瘍科		根岸 孝仁* (初・再)	古林 (初・再) 根岸*／辻田 (再)	中村 (元) (初・再)	根岸* (初・再) 古林／高山 (再)	古林 (初・再)
	血液・細胞治療科		崔／宮下 (初・再) 樋口 (再)	宮下 (初・再) 崔／立川 樋口 (再)	立川 (初・再) 末廣 陽子*／崔 宇都宮 (再)	崔 (初・再) 末廣*／宮下／樋口 宇都宮 (再)	立川 (初・再) 崔／宮下 樋口 (再)
	糖尿病・代謝科 院内紹介のみ		工藤 佳奈* (初・再) 池田 紀子 (再)	工藤* (再) 池田 (初・再)	工藤* (初・再) 池田 (再)	工藤* (初・再) 池田 (再)	工藤* (再) 池田 (初・再)
B	呼吸器腫瘍科		山口 正史*／島松 小齊 (初・再) 藤下／橋之口 (再)	瀬戸／豊澤 河端 (再)	山口 (正)* 豊澤／藤下／小齊 (初・再)	豊澤／河端 (再)	山口 (正)*／島松 藤下 (初・再) 小齊／橋之口 (再)
	消化管・腫瘍内科		江崎 泰斗* (初・再) 奥村 (再)／有水 (再)	江崎* (初) 薦田 (再)／奥村 (再)	江崎* (再) 薦田 (初)／有水 (再)	薦田 (再)／奥村 (再) 有水 (初)	江崎* (再) 薦田 (再)／奥村 (初)
	老年腫瘍科 院内紹介のみ		西嶋 智洋* (第2,4週) (初)	西嶋* (初)	西嶋* (初)	西嶋* (初)	西嶋* (初)
	消化管外科		森田 勝 笠木 (初・再)	当番医 (初) 杉山 (初・再)	当番医 (初) 岩永 (初・再)	古賀 (直) (初・再)	木村 和恵* (初・再)
	消化器・肝胆脾内科	肝臓	田中 (初・再) 初<午後のみ>	杉本 理恵* 千住 (初・再) 初<午後のみ>	千住 (初・再) 初<午後のみ>	杉本 (初・再)* 黒川 (再) 初<午後のみ>	田中 (初・再) 初<午後のみ>
		脾臓	久野 (再) 新名 (初・再)	李 (初・再)	久野 (再) 新名 (初・再)	李 (初・再)	久野 (初・再) 李 (再)
	NET 外来		李／薦田 (初・再)	李／薦田 (初・再)	李／薦田 (初・再)	李／薦田 (初・再)	李／薦田 (初・再)
	肝胆脾外科		<休診日>	<休診日>	<休診日>	杉町 圭史* 富野 (初・再)	杉町* (初) 栗原 (初・再)
	歯科口腔外科 院内紹介のみ		福元 俊輔* 志渡澤 (初・再)	福元 志渡澤 (初・再)	福元 志渡澤 (初・再)	福元 志渡澤 (初・再)	福元 志渡澤 (初・再)
	がん遺伝外来		織田 信弥 (初・再)	<休診日>	織田 (初・再)	<休診日>	織田 (初・再)
	消化管二次検診		消化管・内視鏡科	消化管・腫瘍内科	消化管・内視鏡科	消化管外科	消化管・内視鏡科
C	腫瘍循環器科 院内紹介のみ		河野 美穂子* (初・再)	河野* (初・再)	河野* (初・再)	河野* (初・再)	河野* (初・再)
	消化管・内視鏡科		村木 (初・再)	宮坂／村木／笠井 (再)	宮坂 光俊* (初・再)	宮坂／村木／笠井 (再)	笠井 (初・再)
J	婦人科		島本／二尾 岡留 (初・再)	<休診日>	有吉 和也*／吉田 蒼 (初・再)	島本／山口 (真) 長山 (初・再)	<休診日>
	乳腺科		徳永 えり子*／田尻 担当医 (初・再) 古閑／伊地知／秋吉 厚井 (再)	徳永*／秋吉 担当医 (初・再) 古閑／伊地知／厚井 田尻／中村 (再)	徳永*／古閑 担当医 (初・再) 中村 (再)	<休診日>	伊地知／厚井 担当医 (初・再) 古閑／秋吉／田尻 中村 (再)
	形成外科		<休診日>	福島 淳一* 嶋本 (涼) (初・再)	<休診日>	福島* 嶋本 (涼) (再)	<休診日>
	皮膚腫瘍科		内 博史* (初・再)	<休診日>	内* (初・再)	<休診日>	内* (初・再)
	整形外科／骨軟部腫瘍科		骨転移・がん骨粗鬆 症外来 (初・再)	福島／薛 宇孝* (初・再)	<休診日>	<休診日>	薛*／福島 (初・再)
	緩和ケア外来 サイコオンコロジー科／緩和治療科		大島 (サイコオンコロジー科) (初・再)	三浦 章子* (サイコオンコロジー科) (初・再)	大谷 (緩和治療科) (初・再)	三浦* 嶋本 正弥* (初・再)	嶋本 (正)* (初・再)
E	放射線治療		中島 (初) 國武 直信* (再)	阿部 (初)／中島 (再)	國武* (初)／吉満 (再)	吉満 (初)／阿部 (再)	交代制 (再)

初診予約について

管理ID							
------	--	--	--	--	--	--	--

診療予約申込書 【FAX】 092-541-3390

※本紙と一緒に「診療情報提供書」のFAX送信をお願いいたします。
「診療情報提供書」は当院の書式を使用していただく必要はありません。

令和 年 月 日

九州がんセンター
がん相談支援センター(地域医療連携室)
〒811-1395 福岡県福岡市南区野多目3-1-1
直通 TEL (092)542-8532 FAX (092)541-3390
代表 TEL (092)541-3231 FAX (092)551-4585

受付時間：平日 8：30～17：00
休診日：土・日・祝日
年末年始 (12/29～1/3)

貴院の名称			
所在地			
診療科名			
医師名			
TEL	()	—	
FAX	()	—	
担当者名			

受診希望日	① 月 日 曜日	② 月 日 曜日	③ 月 日 曜日
	☐ 特になし ☐ なるべく早い受診 ☐ 曜日指定のみ () 曜日		
	※各診療科の外来診療日は、ホームページをご参照ください。		
紹介目的	☐ 外来受診 ☐ 転入院 ☐ 検査のみ ☐ 現在ご入院中ですか？ ☐ はい ☐ いいえ		
受診を希望される診療科（該当する診療科に✓をつけてください。）			
☐ 頭頸科	☐ 小児・思春期腫瘍科	☐ 泌尿器・後腹膜腫瘍科	☐ 血液・細胞治療科
☐ 呼吸器腫瘍科	☐ 消化管・腫瘍内科	☐ 消化管外科	☐ 消化器・肝胆膵内科（肝臓）
☐ 消化器・肝胆膵内科（膵臓）	☐ N E T 外来	☐ 肝胆膵外科	☐ 消化管・内視鏡科
☐ 婦人科	☐ 乳腺科	☐ 形成外科	☐ 皮膚腫瘍科
☐ 整形外科・骨軟部腫瘍科	☐ 放射線治療科	☐ 画像診断科（検査依頼のみ）	☐ その他（ ）
☐ 診療科の指定なし			
医師の指定	※ご希望に添えない場合があります。 ☐ なし () 医師 ☐ あり		
当院の医師への事前連絡	☐ なし () 医師に連絡済 ☐ あり		

フリガナ		☐ 男 ☐ 女	生年月日	☐ 大 ☐ 昭 ☐ 平 ☐ 令
患者氏名				年 月 日
住所	〒			
電話番号	※九州がんセンターから連絡して差し支えない番号をご記入ください。		当院受診歴	☐ あり ☐ なし ☐ 不明
事前送付	※事前送付が難しい場合は、患者さんに当日持参いただきますようお願いください。 ☐ あり ☐ 画像データ ☐ 病理プレパラート ☐ その他 () ☐ なし			
当日持参	☐ あり ☐ 画像データ ☐ 病理プレパラート ☐ その他 () ☐ なし			

紹介患者予約通知書

年 月 日

紹介元医療機関



先生

九州がんセンター 地域医療連携室

TEL 092-542-8532 (直通)

FAX 092-541-3390 (直通)

この度、貴院からご紹介のありました患者様の受診日が決まりましたのでご通知申し上げます。
下半分の予約票を切り取り、診療情報提供書とともに患者様にお渡し下さい。
予約票をお渡し出来ない場合は、患者様に予約日と来院時間をご連絡いただきますようお願い申し上げます。

切り取り

診療予約票 九州がんセンター

患者氏名	様	当院ID	
受診科		担当医	
予約日	年 月 日 ()	予約時間	:

予約時間に総合受付窓口にお越し下さい

- 当日は、受付備付けの「診療申込書」にご記入いただき、「この予約票」「紹介状（診療情報提供書）」「マイナンバーカードまたは保険証」「限度額適用認定証（お持ちの方）」をお出し下さい。
- 当日、お薬手帳をご持参下さい。
- 当院を以前に受診されたことのある方は診察券をご持参下さい。
- ご都合により予約日時に来院できない場合は、必ず「地域医療連携室」（092-542-8532）までご連絡ください。
- 予約確定後に内容や日程を変更する場合など、患者さんに当院連携室から直接ご連絡させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

※ 予約時間前に来院されても、受付できませんのでご了承ください。

お問い合わせ先



九州がんセンター 地域医療連携室
〒811-1395 福岡市南区野多目3丁目1番1号
直通TEL：092-542-8532 直通FAX：092-541-3390

放射線治療依頼・予約について

当院では高精度放射線治療として、2008年に定位照射、2010年に強度変調放射線治療（IMRT）を開始しました。2023年6月からは最新鋭のIMRT専用の治療装置として“Radixact”が稼働しています。

定位照射は原発性及び転移性の、脳・肺・肝・骨腫瘍に対して行い、強度変調放射線治療は前立腺、婦人科領域、頭頸部領域など適応があるすべての疾患に対して行っています。これらの治療法により、病変にはより治療効果が高い線量を投与しつつ、周囲の正常組織の被ばくを減らして治療することが可能となりました。



Radixact X9

患者さんにとって最適な治療方法の選択を行うために、各診療科医師及び多職種で検討会を開いて治療方針を決定していますので、ご紹介を宜しくお願いいたします。

- 1 ご紹介いただく前に当院放射線治療医へご連絡いただき、適応の有無や日程につきご相談ください。また、入院治療が必要な場合には各診療科との相談が必要となりますので、その旨お伝えください。

連絡先：九州がんセンター TEL（代表） 092-541-3231

※放射線治療依頼とお伝えください

- 2 「診療予約申込書」に必要事項をご記入いただき、診療情報提供書と併せて地域医療連携室へFAXにてお送りください。

診療予約申込書はP10のサンプルをコピーしていただくか、当院ホームページよりプリントアウトしてご使用ください。

※なお、「診療情報提供書」は当院の書式を使用していただく必要はございません。

地域医療連携室 FAX（直通） 092-541-3390

- 3 内容確認後に、**受診日と来院時間**を記載した「検査予約通知書」をFAXで返信いたします。受診日の確定に時間を要する場合は、当日中にその旨ご連絡いたします。

「検査予約通知書」の下半分は「検査予約票」になっております。切り取って患者さんにお渡しいただき、受診当日にお持ちいただくようご説明ください。お渡しできない場合は内容を患者さんにお伝えください。

放射線検査予約について

最新の撮影技術を導入し、最良の画像診断を提供することで、正確かつ迅速な診療支援を実現しております。患者さん中心の対応を心がけ、安心して検査を受けていただける環境を整えております。

1. CT/MRI/RI 検査予約

- (1) 医療機関からの CT・MRI・RI 検査予約は、地域医療連携室が承ります。まずは地域医療連携室へお電話ください。希望される検査日程などについてお伺いたします。

地域医療連携室 TEL (直通) 092-542-8532

- (2) 「診療予約申込書」に必要事項をご記入いただき、診療情報提供書と併せて地域医療連携室へ FAX にてお送りください。

診療予約申込書は P10 のサンプルをコピーしていただくか、当院ホームページよりプリントアウトしてご使用ください。

地域医療連携室 FAX (直通) 092-541-3390

- (3) 内容確認後に、**受診日と来院時間**を記載した「検査予約通知書」を FAX で返信します。受診日の確定に時間を要する場合は、当日中にその旨ご連絡いたします。

「検査予約通知書」の下半分は「検査予約票」になっております。切り取って患者さんにお渡しいただき、検査当日にお持ちいただくようご説明ください。

お渡しできない場合は予約日時等の内容を患者さんにお伝えください。

- (4) 検査結果は、結果報告書をご紹介いただいた医療器簡易 FAX で送付し、後日報告書と CD-ROM を郵送いたします。

※単純 CT に限り、インターネットによる予約システムもご利用いただけます。詳しくは「カルナコネクトのご案内」(P18) をご参照ください。

2. PET-CT 検査予約

- (1) 医療機関からの PET/CT 検査予約は、地域医療連携室が承ります。地域医療連携室へお電話ください。希望される検査日程などについてお伺いたします。

地域医療連携室 TEL (直通) 092-542-8532

- (2) 「PET/CT 検査 予約申込書 FAX 1/2」と「PET/CT 検査 診療情報提供書 FAX 2/2」を P15-16 のサンプルをコピーしていただくか、当院ホームページよりプリントアウトして必要事項をご記入いただき、FAX でお送りください。

原本は患者さんにお渡しいただき、検査当日患者さんにお持ちいただくようご説明ください。

また、3 か月以内に撮影された CT、MRI 読影レポート、病理診断レポートも併せて FAX でお送りください。

地域医療連携室 FAX (直通) 092-541-3390

- (3) 内容確認後に、**受診日と来院時間**を記載した「検査予約通知書」を FAX で返信いたします。受診日の確定に時間を要する場合は、当日中にその旨ご連絡いたします。

「検査予約通知書」の下半分は「検査予約票」になっております。切り取って患者さんにお渡しいただき、受診当日にお持ちいただくようご説明ください。

お渡しできない場合は予約日時等の内容を患者さんにお伝えください。

- (4) 検査結果は、予約申込書下段の発送方法のご希望に沿って報告書を作成し、後日郵送いたします。



PET-CT 検査

3. 骨密度測定検査予約

- (1) 医療機関からの骨密度測定検査予約は、地域医療連携室が承ります。まずは地域医療連携室へお電話ください。希望される検査日程などについてお伺いいたします。

地域医療連携室 TEL (直通) 092-542-8532

- (2) 「検査依頼書 (骨密度測定)」は P17 のサンプルをコピーしていただくか、当院ホームページよりプリントアウトして必要事項をご記入いただき、地域医療連携室へ FAX にてお送りください。

地域医療連携室 FAX (直通) 092-541-3390

- (3) 内容確認後に、**受診日と来院時間**を記載した「検査予約通知書」を FAX で返信します。受診日の確定に時間を要する場合は、当日中にその旨ご連絡いたします。

「検査予約通知書」の下半分は「検査予約票」になっております。切り取って患者さんにお渡しいただき、検査当日にお持ちいただくようご説明ください。

お渡しできない場合は予約日時等の内容を患者さんにお伝えください。

- (4) 検査結果は、報告書をご紹介いただいた医療機関へ FAX で送付いたします。

※骨密度測定検査は、インターネットによる予約システムも併せてご利用いただけます。詳しくは P18 の「カルナコネクトのご案内」をご参照ください。



骨密度検査

地域医療連携 PET/CT検査 予約申込書

FAX 1/2

紹介先医療機関名 九州がんセンター がん相談支援センター（地域医療連携室） 宛
FAX：092-541-3390 TEL：092-542-8532

- * 検査希望日3日前（15:00）までにお申し込みくださいますようお願いいたします。
* 変更・キャンセルなどの連絡は、2日前（12:00）までにがん相談支援センターまでご連絡ください。
* 前診療日15:00以降のキャンセルにおいては、検査薬の費用（49,720円 税込み）をご負担いただきます。ご了承ください。

記入日： 年 月 日

紹介元医療機関：	名 称			
	所 在 地			
患者情報：	TEL・FAX	TEL：	FAX：	
	診療科・主治医名	診療科：	主治医名： ④	
	フリガナ			
	患 者 氏 名			
	生年月日・性別	年 月 日（ 歳）	男・女	
	住 所	〒		
	T E L	（ ）		
		* 検査前日にお電話でお知らせします。その際の電話番号の記入をお願いします。（前日が休日の場合は、休日前にお電話します） 携帯： （ ）		
当 院 受 診 歴	無・有（ID： ） * ご存知でしたら患者ID番号の記入をお願いします。			

紹介先医療機関名： 九州がんセンター PET/CT・RIセンター

第一希望日： 年 月 日

第二希望日： 年 月 日

* 検査が終わりしだい、患者さんには帰っていただきます。

検査結果は原則として翌診療日以降に発送します。発送方法について、ご希望の番号に○を付けてください。

1. 報告書とCD-ROMを郵送
2. 報告書のみを郵送、CD-ROMなし
3. 報告書をファクスで送付、後日報告書とCD-ROMを郵送
4. 報告書をファクスで送付、後日報告書を郵送、CD-ROMなし

九州がんセンター PET/CT・RIセンター
2025年2月改訂

地域医療連携 PET/CT検査 診療情報提供書 FAX 2/2

紹介先医療機関名 九州がんセンター がん相談支援センター（地域医療連携室） 宛
FAX：092-541-3390 TEL：092-542-8532

* FAX送信後、捺印していただき「診療情報提供書」としてご本人さんに持たせてください。
* 保険適応については、厳密に定められております。検査担当医が適応外と判断した場合は折り返しご連絡いたします。

記入日： 年 月 日

ご持参用

紹介元医療機関：	名 称		
	所 在 地		
患者情報：	TEL・FAX	TEL：	FAX：
	診療科・主治医名	診療科：	主治医名：
	フリガナ		
	患者氏名		

* 現在入院中ですか？（☐はい・☐いいえ） ➡ 「はい」の場合、DPC対象病院ですか？（☐はい・☐いいえ）

臨床診断（確定病名） *早期胃がんを除く			
検査目的	☐ 病期診断・ ☐ 転移・再発診断・ ☐ 原発巣検索・ ☐ 治療効果判定（悪性リンパ腫のみ）		
糖尿病/パースメーカー	糖尿病： ☐ 無・ ☐ 有（空腹時血糖値： mg/dl）/パースメーカー： ☐ 無・ ☐ 有（型式）		
歩 行	☐ 自立・ ☐ 車椅子・ ☐ その他（「その他」の場合、ご連絡/ご相談ください。）		
仰臥位30分間静止	☐ 可・ ☐ 不可（「不可」の場合、検査できません。）		
飲 水	☐ 可・ ☐ 不可 * 300～500ml程度		
独り1時間程度の待機	☐ 可・ ☐ 不可（「不可」の場合、介助者の同意が必要になります。）		
妊 娠 / 授 乳	妊娠： ☐ 無・ ☐ 有（「有」の場合、検査できません）/ 授乳： ☐ 無・ ☐ 有（「有」の場合、24時間後まで授乳は不可）		
感 染 症	☐ 無・ ☐ HBs抗原・ ☐ HCV抗体・ ☐ MRSA・ ☐ 結核・ ☐ その他（ ）/ CRP（ mg/dl）		
過去のPET検査	☐ 無・ ☐ 有（日付： ）		
同一月内の検査	☐ CTを実施 * PETのみの請求となります。・ ☐ ガリウムシンチを実施 * 主たるもののみの請求となります。		
実施画像検査(3ヵ月)	☐ CT・ ☐ MRI・ ☐ RI・ ☐ US・ ☐ その他（ ）* 3ヶ月以内に画像診断を実施している必要があります。		
病 理 診 断	結果： * 得られていない場合「臨床経過」に理由をご記入ください。		
腫瘍マーカー	* 値、検査日付をご記入ください。		
臨 床 経 過	手術歴： ☐ 無・ ☐ 有（日付： 術式： ）		
	化学療法： ☐ 無・ ☐ 有（期間： ）/ 放射線療法： ☐ 無・ ☐ 有（期間： ）		
	* 疾患名、病変部位、経過、画像診断およびその他の検査所見、治療内容（手術、化療等）等、具体的にご記入ください。		
	体重： kg		

* 保険適応につきましては、別紙「PET/CT検査の保険適応について（医師用）」をご参照ください。

九州がんセンター PET/CT・RIセンター

独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター がん相談支援センター（地域連携室）宛
FAX:092-541-3390

検査依頼書（骨密度測定）

検査申込日：令和 年 月 日

◆紹介元医療機関名			
・住所			
・TEL・FAX	TEL	FAX	
・医師名			
（ ）			
◆患者氏名（フリガナ）			
・住所			
・生年月日・性別	☐ M・ ☐ T・ ☐ S・ ☐ H	年 月 日	☐ 男・ ☐ 女
・身長・体重	身長 cm	体重 kg	
・TEL			
・当院受診歴	☐ 無・ ☐ 有（ID	）※ご存じでしたら患者IDの記入をお願いします。	
◆測定部位 ※基本的に腰椎、大腿骨近位部を測定します。			
・特に希望がある場合のみ以下の□に✓を入れてください。			
☐ 腰椎のみ			

※以下のチェックリストにて確認をお願いします。

◆骨密度検査は初回、もしくは前回から4月を過ぎている	☐ はい・ ☐ いいえ（「いいえ」の場合、保険診療外です）
◆妊娠の可能性	☐ 無・ ☐ 有（「有」の場合、検査はできません）
◆仰向けで安静を保持できる	☐ 可・ ☐ 不可（「不可」の場合、検査はできません）
◆検査前1週間以内のバリウム検査や造影剤検査、核医学検査	☐ 無・ ☐ 有（「有」の場合、検査ができません）
◆体内金属	☐ 無・ ☐ 有（「有」で腰椎・股関節の場合、検査ができません） （部位 ）
◆特記事項 ※腰椎または大腿骨に骨折、手術歴がある場合など記入をお願いします。	

※検査予約日のご記入をお願いします。

◆検査予約日時 年 月 日 午後 :

独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

カルナコネクトのご案内

単純 CT、骨密度測定検査の検査予約は、インターネットで予約可能な“カルナコネクト”がご利用できます。

カルナコネクト でのご予約は

- 電話予約が不要です！
- 予約日を患者さんと画面の前で決めることができます！
- カルナコネクトのご利用（登録・予約）は無料です！

カルナコネクトとは

オープンなインターネット環境により、多彩な連携支援が可能なオンライン予約システムのことです。検査予約業務を効率化し、先生方の負担を軽減します。より高度で専門性の高い画像検査・診断が身近にご利用できるようになります。

ご利用の際は、カルナコネクトの導入、専用のユーザー ID、パスワードの設定が必要です。

インターネットを利用した 単純CT・骨密度測定検査の予約が可能です

地域医療連携ソリューションとして、富士フイルムメディカルのカルナコネクトを採用しております

従来の電話運用は…

電話でのやりとり
取り次ぎに時間がかかる
時間外は予約できない

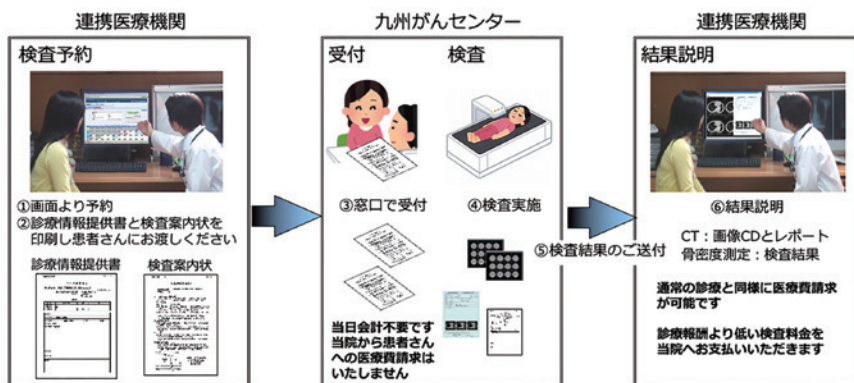


365日24時間予約可能！

インターネットを利用して **確実・簡単な予約が可能です！** **便利！**



- ☑ その場で日時を決められます
- ☑ 画像・CTレポートは郵送となります
- ☑ 患者さんにカルナコネクトのサイトより印刷できる「案内状」をお渡しください



カルナコネクトの導入希望や検査予約方法につきましては、下記の電話番号にお問い合わせください。当院の診療放射線技師長が対応いたします。

TEL 092-541-3231 (代表) (内線 8601)

(カルナコネクトまたはインターネットによる検査予約の件とお伝えください)

がん相談支援センター

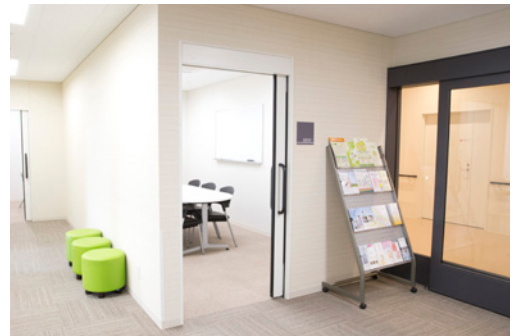
「がん相談支援センター」はその名称のとおり、がんに関する相談とがんの患者さんへの支援を行う窓口であり、当院を含め全国すべてのがん診療連携拠点病院に設置されています。

当院のがん相談支援センターではがん専門相談員として研修を受けた看護師や医療ソーシャルワーカーが常駐して、当院の患者さんに限らず、患者さんやご家族からのご質問やご相談に対応しています。



当院のがん相談支援センターの役割

- がん医療相談
- がん患者の生活・就労・経済的支援などの相談
- 医療連携
- 在宅療養支援
- 情報発信・情報提供
- がん地域連携クリティカルパス関連
- 患者会のサポート及び患者サロンの運営
- アピアランスケアに関する情報提供・アピアランスケアルームの運営
- その他福岡県がん診療連携拠点病院としての役割



面談室



患者サロン

がん相談
支援センター
相談窓口

受付時間：平日 10：00-15：00

場 所：九州がんセンター 1 階 患者・家族支援センター内

電 話：092-541-8100（直通）

相談方法：当院に受診中の方は原則対面で、受診されていない方は電話での相談を行っています。
相談時間は原則 30 分以内です。

料 金：無料

セカンドオピニオン外来について

1. セカンドオピニオンについて

当院では、「現在診療を受けている主治医の診断や治療方針などについての別の医師の意見、およびそれを求める」セカンドオピニオン外来を行っています。

セカンドオピニオンはあくまで現在診療を受けている担当医との良好な関係を保ちながら複数の医師の意見を聞くことです。決して「医師や病院をかえる」ことを目的としたものではありません。また、セカンドオピニオンで受診された際に診察や検査などは行いません。あくまでお送りいただいた診療情報や資料に基づいてセカンドオピニオンを行います。セカンドオピニオンは公的医療保険制度が適用されませんので、全額自己負担になります。

セカンドオピニオンを受けることができる方

患者さんご本人及びそのご家族がセカンドオピニオンを受けることができます。ご家族のみの場合は患者さんご本人の自筆による同意書が必要です。

セカンドオピニオンの対象疾患

がん、悪性新生物、血液疾患など。

※当院では脳腫瘍、眼腫瘍は対象としておりません。

セカンドオピニオンの対象外

- 最初から本院への転院をご希望の場合（このような場合は通常の初診としてご紹介ください。）
- 医療訴訟や医療苦情に関する相談
- 医療費の内容や医療給付に関わる相談
- 亡くなられた患者さんを対象とする相談
- 相談内容が本院の専門外である場合
- 診療情報提供書や検査資料等を持参できない場合

2. 料金について

時 間	料金（消費税等込み）	
60 分以内	33,000 円	外国人患者 99,000 円
60 分超過 90 分以内	44,000 円	110,000 円
90 分超過 120 分以内	55,000 円	121,000 円
120 分超過	30 分毎に + 11,000 円	

※セカンドオピニオンは原則 60 分以内でお願いしています。

※料金には書類の確認・作成などの相談以外の時間も含まれます。

※外国人患者とは、以下のいずれかに該当する方です。

- 日本の公的医療保険に加入していない外国人患者の方
- 日本の公的医療保険に加入しているが日本語での意思疎通が困難な外国人患者の方

外国人患者は、内容や状況によりお受けできないことがあります。

3. お申し込み方法

原則患者さんまたはそのご家族からのお申し込みになります。

(1) 準備していただく書類・資料

- ① セカンドオピニオン申込書
- ② 診療情報提供書、画像検査の CD-ROM、その他必要と思われる検査結果

(2) 申し込み方法

当院では、**完全予約制で実施**しております。

原則、患者さんかご家族に『セカンドオピニオン申込書』に必要事項をすべてご記入いただき下記宛先まで FAX または郵送していただきます。

診療情報提供書、画像検査の CD-ROM、検査結果は、患者さんまたはご家族にお渡しいただき、事前に当院に送っていただきます。お渡しできない場合は、お手数ですが医療機関より配達状況が確認できる方法（郵便局「レターパックプラス」等）にて「がん相談支援センター」宛にお送りください。

送付先

九州がんセンター
がん相談支援センター セカンドオピニオン申込窓口
〒811-1395 福岡市南区野多目3丁目1-1
FAX : 092-541-3390

(3) 相談予約日について

申込書と資料が当院に届きましたら、患者さんの疾患に応じてセカンドオピニオン担当医師と調整し、電話か FAX で予約日時等を申し込みいただいた方にご連絡いたします（日程の調整に3日～7日程度かかります）。

ご不明の点がありましたら当院がん相談支援センターまでお問い合わせください。

I セカンドオピニオン担当医師一覧表

診療科	医師名	専門疾患	日時
消化管外科	木村和恵	消化器癌全般 特に食道がん・胃がん	日時は要相談
	杉山雅彦	消化器癌全般 特に大腸がん	日時は要相談
肝胆膵外科	杉町圭史	肝臓癌・胆管癌・胆のう癌・膵臓癌・十二指腸癌の外科治療	木・金 時間は要相談
呼吸器腫瘍科	山口正史	呼吸器悪性疾患 (肺癌・縦隔腫瘍・中皮腫等)	日時は要相談
	豊澤亮	呼吸器悪性疾患 (肺癌・縦隔腫瘍・中皮腫等)	水 時間は要相談
	瀬戸貴司	呼吸器悪性疾患 (肺癌・中皮腫等)、 抗がん剤	火 9:00～・15:00～
婦人科	有吉和也	婦人科領域悪性疾患 (子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌・膣癌・ 絨毛癌、子宮頸部上皮内腫瘍等)	木 時間は要相談
頭頸科	益田宗幸	頭頸部腫瘍	日時は要相談
	藤賢史	頭頸部腫瘍	日時は要相談
	山内盛泰	頭頸部腫瘍	日時は要相談
乳腺科	徳永えり子	乳癌・乳癌の関連疾患	日時は要相談
泌尿器・後腹膜腫瘍科	根岸孝仁	尿路性器腫瘍(膀胱癌・前立腺癌・尿管癌・ 腎臓癌) 特に膀胱全摘後の尿路変更術や 新規抗がん剤を含む治療	日時は要相談
整形外科	薛宇孝	骨腫瘍・軟部腫瘍・原発性骨・軟部悪性腫瘍	日時は要相談
皮膚科	内博史	皮膚癌(悪性黒色腫、有棘細胞がん、 乳房外パジェット病等)	月・水 午後
血液内科	末廣陽子	血液腫瘍 (白血病・悪性リンパ種・多発性骨髄腫)	日時は要相談
	崔日承	血液腫瘍 (白血病・悪性リンパ種・多発性骨髄腫)	日時は要相談
小児・思春期腫瘍科	中山秀樹	小児血液腫瘍(特に小児がんの化学療法)、 幹細胞移植(骨髄移植・臍帯血移植等)	木 13:00～ 他の曜日は要相談
	古賀友紀	全ての小児・思春期がん(難治性白血病・ リンパ腫・胎児性腫瘍・骨軟部腫瘍・ 脳腫瘍等)に対する化学療法およびがん ゲノム診療、造血細胞移植	日時は要相談
消化器・肝胆膵内科	杉本理恵	肝がん・胆道がん(肝内胆管がん、胆管がん、 胆のうがん)	月・水 午前午後 金 午前
	久野晃聖	膵癌・胆管癌	日時は要相談
	古川正幸	膵癌・胆管癌	日時は要相談
消化管・腫瘍内科	江崎泰斗	進行胃癌・再発胃癌・大腸癌・ 原発不明癌	火・木 14:00～
	薦田正人	進行胃癌・再発胃癌・大腸癌・ 原発不明癌	月 14:00～
放射線治療科	國武直信	放射線治療	日時は要相談

(患者様控え)

国立病院機構 九州がんセンター セカンドオピニオン 申込書

訴訟等の目的に使用しないこと及び自由診療料金として定められた金額を支払うことに同意の上、
以下の内容で、貴院のセカンドオピニオン外来受診を申し込みます。

令和 年 月 日

患者さん	御 氏 名	(ふりがな)				
		様 (男・女)				
	生 年 月 日	(明治・大正・昭和・平成) 年 月 日生 (歳)				
	御 住 所	〒				
	電 話 番 号					
申 込 者	御 氏 名					
	患者さんとの続柄	御本人・御家族(続柄:)				
	御 住 所	〒				
	御 連 絡 先 (日中に確実に つながる連絡先をご 記入ねがいます)	T E L	-	-	F A X	-
	携帯電話	- -				
疾 患 名	# 1					
	# 2					
	# 3					
ご相談の具体的な内容 (相談目的、現在の病名・ 病状についての説明、現在ま での経過をご記入ください。)						
主治医に ついて (お分か りになる 範囲で結 構です)	病院・診療所名					
	所 在 地					
	電 話 番 号					
	診 療 科					
	主 治 医 名					

【確定内容(病院記載欄)】

相 談 日 時	年 月 日 () 時 分
担 当 医	科 先生
相 談 場 所	診療科診察室・その他 ()

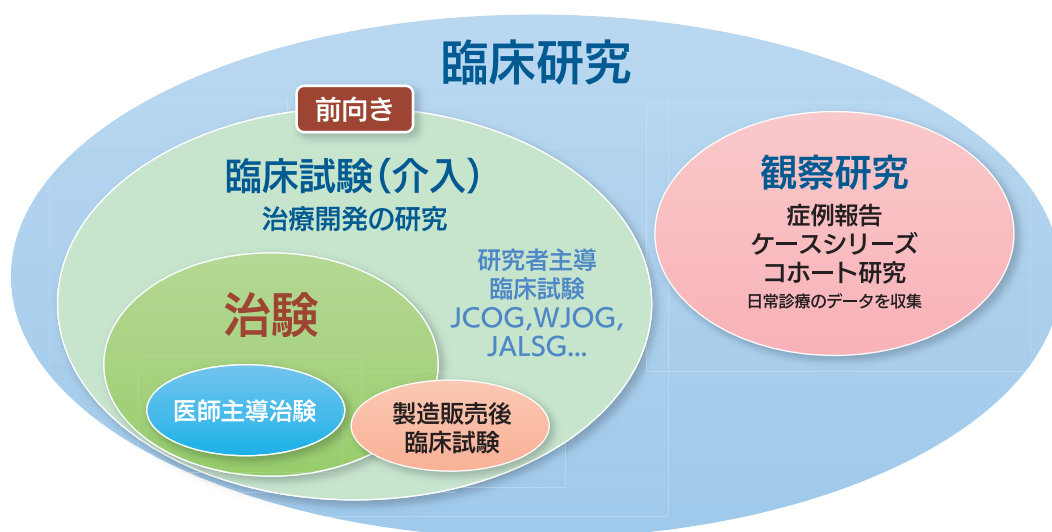
- ①現在おかけの主治医の先生にセカンドオピニオンの了解を得てください。
 ②「診療情報提供書」と「検査、画像等の資料」をご郵送(宅配便)ください。
 ③資料到着後セカンドオピニオンの日程調整をさせていただきます。御相談内容が複数の診療科に関係している
 場合などは、当該の複数の医師で検討して、再度別の日にご説明することもあります。ご了承ください。
 *相談時間は原則1時間を限度(資料閲覧、書類作成時間を含む)とし、料金は33,000円(外国人患者は99,000
 円。消費税等込み)です。
 やむを得ず1時間を超えた場合は、30分またはその端数を増すごとに11,000円(消費税等込み)を加算させていただきます。
 相談する医師が2人の場合、2件分の相談(1人1時間を限度)ですので、料金は2件分の66,000円(外国人
 患者は198,000円。消費税等込み)になります。全額自費で健康保険は適用されません。
 *受付時間 9:00~16:00 国立病院機構 九州がんセンター がん相談支援センター TEL 092-541-3231
 〒811-1395 福岡市南区野多目3丁目1-1 FAX 092-541-3390

治験・臨床試験について ～当院の取り組み～

臨床研究センター長 江崎 泰斗

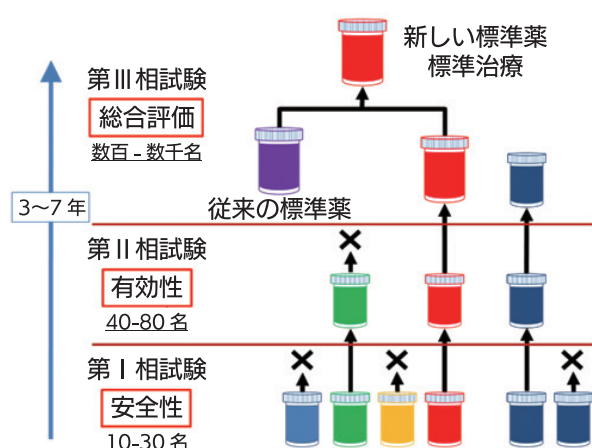
臨床研究は、大きく「観察研究」と前向きに介入*を行う「臨床試験」に分けられます。さらに臨床試験の中で、「薬の候補」を市販の「くすり」として認めてもらうために、製薬会社が国の機関（PMDA 医薬品機構）の審査を受けた上で、対象となる患者さんに参加していただき効果や安全性を調べる試験のことを「治験」と呼びます。抗がん薬の「治験」の場合は強い毒性がみられることがあるため、一般の健常者は対象となりません。

※介入：予防、診断、治療、看護ケア、リハビリテーション等の処置を、研究を目的として参加者（被験者）に施すこと。



「治験」の流れは下図の通りです。第Ⅲ相試験で標準治療と比べて効果や安全性がすぐれていることが確認されたのち、厚生労働省により承認され、製薬会社は「くすり」を発売することができるようになります。

治験の流れ



当院では、がんの専門病院として多くのがん種で様々な抗がん薬の「治験」を行っています。毎年 30 ～ 40 の新しい治験を開始し、継続して実施している治験の数は 130 ～ 140 前後に上ります。より実臨床に近い第Ⅱ、第Ⅲ相試験が中心ですが、まだ臨床データの少ない第Ⅰ相試験や、患者さんの数が少なく製薬会社の利益につながらない希少がんに対する治験（医師主導治験）にも取り組んでいます。半数以上が国際共同治験であり欧米と同時に開発が進みます。これにより日本人だけ「くすり」の供給が遅れるというドラッグラグの解消

が図られています。当院は全国の国立病院機構 140 施設の中ではトップの治験実績であり、がんの分野では一般病院・大学を含めて大阪以西で最大の施設の一つとなっています。

また、検査や診断法、治験の結果承認された薬剤（あるいはそれを含んだ併用療法）による薬物療法、放射線治療や手術などの治療法について、より有用とされる新しい治療法（方法）を現在の標準治療と比較検討する目的で臨床試験が行われます。当院では JCOG や WJOG、JALSG など全国の大規模臨床試験グループに中心施設の一つとして参加し、「よりよい治療法の開発」を目的とし、他施設と協力して数多くの臨床試験に取り組んでいます。

治験や臨床試験への参加は参加者（被験者）の自由意思に基づいて行われますが、研究は患者さんの権利と安全を最大限に守るために、厚生労働省が定めた治験実施の基準〔GCP（ジーシーピー）：Good Clinical Practice〕や特定臨床研究法、倫理指針（人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針）などに従って行われます。

治験推進室・臨床試験推進室では看護師、薬剤師、事務など約 40 名の専任スタッフを配属し、治験・臨床研究をサポートしています。

患者さん達は常に新薬の登場を待ち望んでいます。新聞やテレビ、ネットのニュースでがんの新薬研究が取り上げられると、次の外来では自分にもあの治療は使えないのか、これで自分のがんは治るのではないかと大きな期待を抱いて私達に尋ねてこられます。当院の理念である「病む人の気持ちを」という原点に立ち返る時、「治験・臨床試験」は、「目の前の」患者さんにいち早く将来有望となる可能性のある治療を届けるだけでなく、「未来の」同じがん患者さんのための新薬開発・研究でもあります。当院の大きな使命と考え、スタッフ一同、力を注いでいます。

標準治療（現在の最善の治療）のみならず治験・臨床試験を含めた最新のがん医療を希望される患者さんに、九州がんセンターをご紹介しますと幸いです。

（各診療科で取り組んでいる治験・臨床試験については当院ホームページ「治験・臨床研究」をご確認ください。）

当院ホームページもご参照ください。

<https://kyushu-cc.hosp.go.jp/about/clinicaltrial.html>

ホーム > 治験・臨床研究

がんゲノム外来

近年のがん医療では、がん細胞の遺伝子の状態を解析し、その結果によって、診断したり、治療方針を決定したりすることが行われるようになりました。また、一度に多数の遺伝子を解析することも可能になってきました。このような検査により、想定されていなかった遺伝子の所見が明らかになることで、診断や治療に結びつく事例も増えてきました。このように、多（パネル）遺伝子解析により、遺伝子の状態を同時に複数評価し、より効率的な診断・治療につなげる医療をゲノム医療と呼んでいます。現在、このゲノム医療は保険診療が適用されるようになり、多くの患者さんが利用できるようになっています。

がん診療を目的としたパネル遺伝子解析検査をがん遺伝子パネル検査と呼んでいます。がん遺伝子パネル検査は現在、国内外の多くの医療機関で、解析方法の異なる複数の検査が提供されています。

1. がん遺伝子パネル検査の検体と方法

(1) 検査に必要な検体

がん遺伝子パネル検査では、がん組織から DNA や RNA を抽出し、用います。そのため、手術や生検により得られるがん組織サンプルを準備する必要があります。また、がん組織サンプルが準備できない場合などには、血液も用いられます。

(2) 検査の方法

がん組織より得られた DNA や RNA をシーケンサーと呼ばれる機器により遺伝子の配列、構造、数の変化を解析します。対象となる遺伝子パネルは、100 - 300 個程度のものが一般的です。対象となる遺伝子是用いる検査商品によって大きく異なります。全ての遺伝子の情報が得られるわけではなく、解析対象となっていない遺伝子の情報は得られませんので、注意が必要です。

2. がん遺伝子パネル検査のメリットとデメリット

(1) 検査のメリット

特定の遺伝子に変化が見つかることで、疾患がより詳しく診断されたり、特定の治療方法が有効である可能性がわかったりすることがあります。

(2) 検査のデメリット

検査を行っても、解析対象となった遺伝子に**特段の所見が得られない場合も少なくありません**。その場合は、あなたの診療に検査の結果を生かすことはできません。また、遺伝子に**所見が得られても、治療に結びつかないことも少なくありません**。さらに、一度に多くの遺伝子を解析することで、それまで予想もしていなかった遺伝子の所見が明らかになり、**現在の診断が変更される場合、新たな疾患の存在が明らかになる場合もあります**。特に、数 % の確率で、**遺伝性の疾患が診断されることがあります**。遺伝性疾患の場合、子供など家族とも疾患を共有している可能性があります。

3. 検査商品と費用

九州がんセンター「がんゲノム外来」において現在提供されているがん遺伝子パネル検査商品と受診にともなう費用は以下のとおりです。

(1) 検査商品

A. 健康保険診療

a) シスメックス	Oncoguide™	(124 遺伝子)
b) 中外製薬	FoundationOne®	(324 遺伝子)
c) コニカミノルタ	GeneMineTOP	(737 遺伝子)
d) 中外製薬	FoundationOne® Liquid ※血液用	(324 遺伝子)
e) ガーダントヘルスケアジャパン	Guardant360® CDx ※血液用	(74 遺伝子)

B. 自費診療

保険診療が適用されない場合に、上記の検査商品について、以下の検査の実施に伴う費用の10割負担にて利用可能。

(2) 費用

A. 検査の実施に伴う費用

a) 検査実施時：	132,000 円（税別）（3割負担の場合）
b) 検査結果説明時：	36,000 円（税別）（3割負担の場合）

B. がんゲノム外来受診料

a) 健康保険診療：	（定められた受診料）
b) 自費診療（2回分/10割負担）：	20,000 円（税別）

がん遺伝子パネル検査を受けることを検討する際には、上記の事柄をよく理解した上で、がんパネル遺伝子検査が現在のあなたの診断や治療にとって役立つかどうか、主治医とよく相談して、検査を実施するかどうか判断しましょう。

当院でがん遺伝子パネル検査を受けることを検討される方は、以下の連絡先までご連絡ください。

A. 現在、当院で診療を受けている方

主治医にご相談ください。

B. 現在、当院で診療を受けていない方

以下の連絡先にご本人がお電話ください。

連絡先

〒811-1395 福岡市南区野多目 3-1-1
独立行政法人国立病院機構九州がんセンター
がんゲノム受付
がん相談支援センター内（担当：井上）
TEL 092-541-3231（代表）

当院ホームページもご参照ください。

<https://kyushu-cc.hosp.go.jp/profession/caution.html>

ホーム > 医療関係の方へ > **がん遺伝外来・がんゲノム外来の受診方法**

がん遺伝外来

がんは遺伝と環境のバランスによって発生するものと考えられていますが、環境の影響でほぼ説明できるがんがある一方、遺伝の影響がかなり大きいものが知られてきました。すべてのがんが遺伝するわけではありませんが、一部に「遺伝するがん」の存在がわかってきたのです。このような遺伝するがんの中には、遺伝子検査で診断可能であり、且つ対処方法が明らかになっているものがあり、積極的な対応がもとめられています。

現在、遺伝するがんの多くは遺伝性腫瘍と呼ばれています。一般的ながんが遺伝する場合も少なくなく、大腸癌、胃癌、乳癌、婦人科がんといったがんが親族の中で多数見られる場合には、遺伝性腫瘍をうたがう必要があります。また、著しい若年の発症も、遺伝性腫瘍をうたがう必要があります。

主な遺伝性腫瘍には

- a . 遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (Hereditary Breast and Ovarian Cancer Syndrome, HBOC)
- b . リンチ症候群 (Lynch Syndrome) / 非ポリポーシス遺伝性大腸癌 (Hereditary Non-Polyposis Colorectal Cancer, HNPCC)
- c . 家族性大腸腺腫症 / 家族性大腸ポリポーシス (Familial Adenomatous Polyposis, FAP)
- d . 多発性内分泌腫瘍症 (Multiple Endocrine Neoplasia, MEN) I 型 / II 型
- e . リ・フラウメニ症候群 (Li-Fraumeni Syndrome, LFS)

などが挙げられます。

遺伝性腫瘍は遺伝相談・カウンセリングを通じて診断されます。また、遺伝子検査により確定診断されます。遺伝子検査により、遺伝子情報のはっきりとした変化がみつければ、診断を確定することができ、適切な対応を開始することができます。また、ご親族の方々のリスクを評価することもできます。しかしながら、遺伝子検査をおこなっても、遺伝子情報のはっきりとした変化が確認できないこともあります。このため、最近では、遺伝性腫瘍の原因遺伝子を多数、一度に検査することもあります。

遺伝性腫瘍の遺伝子検査には、まだ保険診療でみとめられていないものが多く、自費診療によって提供されるものが少なくありません。費用は、単一の遺伝子の検査では、自費診療の場合、約 50,000 円から 120,000 円程度。保険診療の場合、約 12,000 円から 60,000 円程度。また、多くの遺伝子を検査する場合は、約 400,000 円程度を要します。遺伝性腫瘍であることが強く疑われても、遺伝子検査を受けない選択肢を選ぶこともできます。

多くの遺伝性腫瘍では、生じるがんは、大腸癌、乳癌などの一般的ながんです。これらのがんそのものに対する治療は、大腸癌、乳癌などに対する一般的な治療とかわりません。しかしながら、遺伝性腫瘍では、一般的ながんの患者にくらべ若い年齢で発症したり、何度もがんが生じたりすることがあるため、がんの

治療と並行して、より注意深い定期的な検査が必要になります。この定期的な検査（サーベイランス）は、遺伝性腫瘍においては、治療と同じく、あるいはそれ以上に重要な対策といえます。また、一部の遺伝性腫瘍では、がんが生じる可能性の高い臓器を予防的に切除する手術療法（リスク低減手術）も実施されています。

当院がん遺伝外来の受診を希望される場合は、がん相談支援センターに電話でお問い合わせください。尚、発症したそれぞれのがんの治療は各診療科が担当します。サーベイランス、リスク低減手術も、対象臓器に応じて、各診療科が担当します。

がん遺伝外来は完全予約制です。受診される方はかならず、がん相談支援センター（電話番号：092-541-3231（代表））で予約をしていただきます。1回の遺伝相談・カウンセリングに要する時間は約1時間程度です。また、がんの遺伝相談・カウンセリングは自費診療の場合と保険診療の場合とがあります。遺伝子検査の費用は別途ご負担いただきます（自費診療の場合と保険診療の場合とがあります）。検査の費用については、遺伝相談・カウンセリングの中でご説明します。

当院ホームページもご参照ください。

<https://kyushu-cc.hosp.go.jp/profession/caution.html>

ホーム > 医療関係の方へ > **がん遺伝外来・がんゲノム外来の受診方法**

訪問看護ステーション

九州がんセンター訪問看護ステーションは、がん看護に特化した訪問看護ステーションとして2018年7月に運営を開始しました。九州がんセンターの患者さんに限らず、地域の患者さんへ医療保険・介護保険を利用した訪問看護サービスを提供しています。訪問看護を実施するのは、当院にてがん看護を実践した経験豊富な看護師です。また、訪問リハビリテーションも実施しています。

がん患者さんが住み慣れた家と地域で安心・安全に生活できるように、質の高い訪問看護サービスを提供いたします。

申し込み方法

九州がんセンター訪問看護ステーションに直接ご連絡ください。

TEL 092-555-5102 受付時間 9:00-17:00

訪問看護サービスを行うためには、必ずかかりつけ医（主治医）に作成・発行していただく「訪問看護指示書」が必要です。

訪問エリア

原則乗用車で片道30分圏内（福岡市・大野城市・那珂川市・春日市）

その他の地域につきましてはご相談ください。

訪問看護の内容

- ・退院直後の体調管理や日々の体調管理
- ・手術や化学療法、放射線治療後の副作用への対応

病状の観察と看護



- ・入浴や更衣など清潔のケア
- ・食事や口腔ケアなどの介助および指導

日常生活のお手伝い



- ・ご自宅での酸素吸入や点滴、ストーマケアの管理
- ・吸引やカテーテルの管理

医療処置の実施



- ・痛み、呼吸困難、倦怠感などを和らげるケア

苦痛の緩和



- ・ご自宅での療養生活にかかわる、自宅環境の確認や、福祉用具などの指導

療養環境の調整



- ・病棟や外来の看護師と連携し、退院後の在宅療養に向けた準備や指導

在宅療養への移行支援



- ・ご本人やご家族の思いに沿って、その人らしい療養生活を送ることができるような支援

ターミナルケア



- ・ご家族への介護支援や相談、精神・心理的な看護や介護予防など

その他



※料金など詳細につきましては、九州がんセンターホームページをご覧ください。

<https://kyushu-cc.hosp.go.jp/>



診療科のご案内

● 血液・細胞治療科	32
● 消化管・腫瘍内科	33
● 消化器・肝胆膵内科	34
● 小児・思春期腫瘍科	35
● 呼吸器腫瘍科	36
● 消化管外科	37
● 肝胆膵外科	38
● 婦人科	39
● 乳腺科	40
● 頭頸科	41
● 泌尿器・後腹膜腫瘍科	42
● 整形外科	43
● 形成外科	44
● 消化管・内視鏡科	45
● 皮膚腫瘍科	46
● 歯科口腔外科	47
● 画像診断科	48
● 放射線治療科	49
● 緩和治療科	50
● サイコオンコロジー科	51
● 腫瘍循環器科	52
● 糖尿病・代謝科	53
● 老年腫瘍科	54
● 麻酔科	55
● 病理診断科	56
● 臨床検査科	57
● リハビリテーション科	58

血液・細胞治療科

診療科責任者



部長 末廣 陽子

- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医
- 日本血液学会専門医・指導医
- 日本造血・免疫細胞療法学会認定医
- 日本輸血・細胞治療学会細胞治療認定管理師
- 日本再生医療学会再生医療認定医

診療科スタッフ

医長

崔 日承

- 日本内科学会認定内科医
- 日本血液学会専門医・指導医
- 日本造血・免疫細胞療法学会認定医
- 日本医師会認定産業医

医長

立川 義倫

- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- 日本血液学会専門医・指導医
- 日本造血・免疫細胞療法学会認定医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ICD

医師

宮下 要

- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- 日本血液学会専門医・指導医
- 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医

医師

樋口 茉希子

- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- 日本血液学会専門医

医師

宇都宮 渉

- 日本内科学会内科専門医
- 日本血液学会専門医

医師

榎 智佳

- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- 日本血液学会専門医
- がん治療認定医

診療方針・特色

当科は、日本最大級の悪性リンパ腫および白血病の研究グループ（JCOG および JALSG）に所属して、最新の診断と治療の開発に携わっています。また、有効な新規薬剤が日本で速やかに承認されて将来の多くの患者さんで使用することができるように、治験にも数多く参加しています。そして、治験を受けることを希望する現在の患者さんの気持ちにも可能な限り応えられるように努めています。最近ではがん免疫療法のひとつとして細胞療法*を取り入れ、副作用が少なく安全に健康寿命を延ばす治療法を開発を目指しています。なかでも、現在開発中の成人T細胞白血病/リンパ腫（ATL）に対する樹状細胞ワクチン療法は、最も信頼性の高い「治験」という形で世界に先駆けて取り組んでおり、2021年から薬事承認を目指した第2相医師主導治験を実施しています**。

血液・造血器腫瘍の治療は長期にわたって行われることが多く、患者さんの希望を尊重して安心した療養生活が送られるように、医師・看護師・薬剤師のみならず、理学療法士や言語聴覚士、栄養士、臨床心理士、社会福祉士などと意見交換しながら治療を行うことを心がけています（チーム医療）。

* 細胞療法とは、ヒトの細胞や組織を体外で加工して治療に用いる治療法の総称です。

** ATLは、HTLV-1ウイルス感染者（HTLV-1キャリア）に発症する血液・造血器腫瘍ですが、現在樹状細胞ワクチン療法の第2相治験を実施中です（日本医療研究開発機構（AMED）「革新的がん医療実用化研究事業」：<https://jrct.niph.go.jp/latest-detail/jRCT2073210013>）。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
崔 日承	宮下 要	立川 義倫	崔 日承	立川 義倫
宮下 要			樋口 / 末廣 (HTLV-1 キャリア 外来)	

再診

月	火	水	木	金
崔 日承	崔 日承	末廣 陽子	末廣 陽子	崔 日承
宮下 要	立川 義倫	崔 日承	崔 日承	立川 義倫
樋口 茉希子	宮下 要	立川 義倫	宮下 要	宮下 要
	樋口 茉希子	宇都宮 渉	樋口 茉希子	樋口 茉希子
			宇都宮 渉	

消化管・腫瘍内科

診療科責任者



臨床研究センター長・部長併任 江崎 泰斗

○日本臨床腫瘍学会指導医・がん薬物療法専門医
○日本内科学会指導医・総合内科専門医・認定内科医

診療科スタッフ

医長

薦田 正人

○日本臨床腫瘍学会指導医・がん薬物療法専門医
○日本内科学会指導医・総合内科専門医・認定内科医
○日本がん治療認定医機構がん治療認定医
○臨床研修指導医

医師

奥村 祐太

○日本臨床腫瘍学会指導医・がん薬物療法専門医
○日本消化器病学会専門医
○日本内科学会指導医・総合内科専門医・認定内科医

医師

有水 耕平

○日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医
○日本内科学会総合内科専門医・認定内科医

医師

片山 佐知子

診療方針・特色

近年、新規薬剤の開発、投与方法の工夫、副作用に対する対症療法の進歩などにより、がん薬物療法の治療成績は向上し、生活の質（QOL）も重視した化学療法が広まっています。当科では、腫瘍内科医によるきめ細やかな配慮の元、比較的全身状態の良好な患者さんに積極的に外来通院治療を行っています。また、病初より痛みなどの症状があり外来通院困難な患者さんに対しては、入院の上症状緩和および積極的な化学療法や放射線治療を行い、全身状態の改善の後外来治療に移行します。希望される方は繰り返し入院での治療も可能です。積極的治療の効果がなくなりがんが進行した場合は、ご本人、家族の希望に配慮し、当院での緩和ケアの他在宅や緩和ケア施設への適切な紹介を行っています。

ご本人の意向を尊重し、最新の知見に基づき、病状に応じた最も効果の期待できる治療法を選択します。院内他科の医師とも緊密な連絡を取り治療方針を決定します。また、安全でより有効な薬剤、治療法をいち早く目の前の患者さんに届けたいと考え、未承認薬の治験や、標準治療の確立に重要な数多くの治験、多施設共同研究にも積極的に取り組んでいます。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
江崎 泰斗	江崎 泰斗	薦田 正人	有水 耕平	奥村 祐太

再診

月	火	水	木	金
江崎 泰斗	薦田 正人	江崎 泰斗	薦田 正人	江崎 泰斗
奥村 祐太	奥村 祐太	有水 耕平	奥村 祐太	薦田 正人
有水 耕平				

消化器・肝胆膵内科

診療科責任者



統括診療部長・部長併任 杉本 理恵

- 日本内科学会認定内科医・専門医・指導医
- 日本消化器病学会専門医・指導医
- 日本肝臓学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本膵臓学会指導医

診療科スタッフ

医長

久野 晃聖

- 日本内科学会認定内科医・専門医
- 日本消化器病学会専門医・指導医
- 日本膵臓学会指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

新名 雄介

- 日本内科学会認定医
- 日本消化器病学会専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本膵臓学会指導医

医師

千住 猛士

- 日本内科学会認定医
- 日本消化器病学会専門医・指導医
- 日本肝臓学会専門医・指導医

医師

古川 正幸

- 日本消化器病学会専門医・指導医
- 日本膵臓学会指導医

医師

田中 ゆき

- 日本内科学会認定内科医・専門医
- 日本肝臓学会専門医・指導医

医師

李 倫學

医学博士

医師

黒川 美穂

- 日本内科学会認定内科医・専門医
- 日本消化器病学会専門医
- 日本肝臓学会専門医

診療方針・特色

肝胆膵のがんは進行が早く予後が悪く治りにくいがんの一つです。そのためがんになった臓器だけを見るのではなく、各々の患者さんのすべてを診ていく必要があります。私たちは全国有数の専門病院としてこれらの疾患を総合的に診療しています。当院の強みは肝臓、膵臓、胆道それぞれの専門家がそろっていることでがんの発見、診断から内科、外科的な治療、がんに伴う黄疸や発熱、消化管の狭窄、腹水や肝性脳症といった症状を取る治療といったことを途切れることなく行うことができます。我々は各種内視鏡や超音波装置を駆使して正確な診断と治療に情熱を燃やしています。またがんに対する薬物療法は日々進化しておりこれらに精通していることが求められますが、我々は多数の臨床試験なども行い患者さんに最適な治療をお届けできるよう努めています。

我々は患者さん一人一人に向き合い、その方にとって今後の日々がより良いものになるよう「少しでも元気で長生きを目指す治療を」お届けしたいと考えています。

外来担当医師

【肝臓】初診

月	火	水	木	金
田中 ゆき (午後のみ)	杉本 理恵 (午後のみ)	千住 猛士 (午後のみ)	杉本 理恵 (午後のみ)	田中 ゆき (午後のみ)
	千住 猛士 (午後のみ)			

【肝臓】再診

月	火	水	木	金
田中 ゆき	杉本 理恵	千住 猛士	杉本 理恵	田中 ゆき
	千住 猛士		黒川 美穂	

【膵臓】初診

月	火	水	木	金
新名 雄介	李 倫學	新名 雄介	李 倫學	久野 晃聖

【膵臓】再診

月	火	水	木	金
久野 晃聖	李 倫學	久野 晃聖	李 倫學	久野 晃聖
新名 雄介		新名 雄介		李 倫學

【NET 外来】初診

月	火	水	木	金
李 倫學	李 倫學	李 倫學	李 倫學	李 倫學
薦田 正人	薦田 正人	薦田 正人	薦田 正人	薦田 正人

【NET 外来】再診

月	火	水	木	金
李 倫學	李 倫學	李 倫學	李 倫學	李 倫學
薦田 正人	薦田 正人	薦田 正人	薦田 正人	薦田 正人

小児・思春期腫瘍科

診療科責任者



医長 中山 秀樹

○日本小児科学会専門医
○日本血液学会専門医・指導医

診療科スタッフ

医長

古賀 友紀

○日本小児科学会専門医・指導医
○日本血液学会専門医・指導医
○日本がん治療認定医
○日本小児血液・がん学会専門医・指導医
○日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医
○日本緩和医療学会認定医

医師

野口 磨依子

○日本小児科学会専門医
○日本血液学会専門医
○日本小児血液・がん学会専門医

医師

東矢 俊一郎

○日本小児科学会専門医

医師

横山 智美

医師

川口 健介

診療方針・特色

1973年に日本で初めてきょうだい間骨髄移植を行った実績を持ち、長年にわたり小児患者への造血細胞移植を行ってきました。現在、同種および自家移植を行う専門チームがあり、小児科専門医、血液専門医、小児血液がん専門医、造血細胞移植認定医、緩和ケア認定医が常勤し、臓器別がんの専門家と連携して血液腫瘍、固形腫瘍に対する横断的・縦断的な診療を提供しています。医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、心理士、理学療法士、栄養士、緩和ケアチームなど多職種、多部門が協力し、患者さんと家族に寄り添う医療を行っています。病室だけでなく廊下、プレイルーム、院内学級などすべてが無菌管理空間となっており、付き添いベッドも完備、安心・安全な療養環境を提供しています。特に再発難治例や稀少疾患に豊富な経験を有し、セカンドオピニオンを随時受け付けています。治療後や遠方の患者さんの受け入れも可能、当院での治療歴がなくても医療機関、患者さんからのご相談をいつでもお受けします。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
中山 秀樹	古賀 友紀	中山 秀樹	古賀 友紀	中山 秀樹
古賀 友紀	野口 磨依子	古賀 友紀	野口 磨依子	古賀 友紀

再診

月	火	水	木	金
中山 秀樹	古賀 友紀	中山 秀樹	古賀 友紀	中山 秀樹
古賀 友紀	野口 磨依子	古賀 友紀	野口 磨依子	古賀 友紀

呼吸器腫瘍科

診療科責任者



部長 山口 正史

- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本呼吸器外科学会専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 胸腔鏡安全技術認定医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医

診療科スタッフ

医師

島松 晋一郎

- 日本外科学会専門医
- 日本呼吸器外科学会専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

豊澤 亮

医師

藤下 卓才

- 日本外科学会専門医
- 日本呼吸器外科学会専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

小齊 啓祐

- 日本外科学会専門医

医師

橋之口 朝仁

- 日本外科学会専門医

医師

河端 俊英

医師

瀬戸 貴司

- 日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
- 日本臨床腫瘍学会薬物療法専門医・指導医
- 日本内科学会認定医
- 日本癌治療学会臨床試験登録医

診療方針・特色

当院の呼吸器腫瘍科は内科、外科の領域の区別なく全ステージの呼吸器腫瘍を総合的に診療することを特徴としており、手術療法、化学療法、および放射線療法、支持療法などを併用した集学的治療を行っています。これは、肺癌をはじめとする胸部の悪性腫瘍の治療法がそれぞれの病状により多岐にわたるため全領域における幅広い知識と経験を要するからです。手術、化学療法は当科の各種専門医、認定医が施行し、また放射線治療は放射線科の治療専門医が施行しますが、治療の一貫性を保つため主治医は呼吸器腫瘍科の医師が担当しています。個々の患者さんの治療法は主治医独断ではなく、当科の全医師参加のカンファレンスによって総合的に決定し、その治療は看護師、薬剤師、緩和ケアチーム、医療ソーシャルワーカー、理学療法士などと連携したチーム医療により質の高さを維持するよう努めています。またいかなる治療についても患者さんに十分な説明を行い、同意が得られることを絶対的な原則としています。

当科は日本肺癌学会の「肺がん診療ガイドライン」作成にも関与すると同時に、全日本的な臨床試験グループにも参加し、より適正な標準治療の確立に貢献し、また有用な新規抗癌剤の早期承認にむけての治験などにも力を入れています。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
山口 正史	—	山口 正史	—	山口 正史
島松 晋一郎		豊澤 亮		島松 晋一郎
小齊 啓祐		藤下 卓才		藤下 卓才
		小齊 啓祐		

再診

月	火	水	木	金
山口 正史	瀬戸 貴司	山口 正史	豊澤 亮	山口 正史
島松 晋一郎	豊澤 亮	豊澤 亮	河端 俊英	島松 晋一郎
藤下 卓才	河端 俊英	藤下 卓才		藤下 卓才
小齊 啓祐		小齊 啓祐		小齊 啓祐
橋之口 朝仁				橋之口 朝仁

消化管外科

診療科責任者



部長 木村 和恵

- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本消化器外科学会専門医・指導医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医 消化器・一般外科 / ロボット支援手術認定プロクター
- 日本食道学会食道科認定医・食道外科専門医
- 消化器がん外科治療認定医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

診療科スタッフ

院長

森田 勝

- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本消化器外科学会専門医・指導医
- 日本食道学会食道科認定医・食道外科専門医
- 日本気管食道科学会専門医
- 日本消化管学会胃腸科専門・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- Fellow of American College of Surgeons (FACS)

医長

杉山 雅彦

- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本消化器外科学会専門医・指導医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医 ロボット支援手術認定プロクター (大腸)
- 日本食道学会食道科認定医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 消化器がん外科治療認定医
- 日本ロボット外科学会ロボドック (国内B級)
- 日本臨床研修指導医

医師

笠木 勇太

- 日本外科学会専門医 ○日本消化器外科学会専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

古賀 直道

- 日本外科学会専門医 ○日本消化器外科学会専門医
- 日本食道学会食道科認定医 ○消化器がん外科治療認定医

医師

岩永 彩子

- 日本外科学会専門医 ○日本内視鏡外科学会技術認定医
- 日本消化器外科学会専門医 ○日本食道学会認定医
- 日本腹部救急学会認定医
- Certificate davinci system as console Surgeon

医師

寺師 宗秀

- 日本外科学会専門医

医師

横溝 玲奈

診療方針・特色

地域の皆さまに最高水準の外科医療を提供することを目指し、以下の取り組みを行っています。

- 低侵襲手術の推進：胸腔鏡や腹腔鏡を用いた内視鏡手術を早期から導入し、現在ではほとんどの手術を患者さんの負担が少ない方法で実施しています。ロボット支援下（ダビンチ）による手術も積極的にを行い、従来の開胸・開腹手術と同等の手術時間で、術後の回復をより迅速にしています。
- 切除困難症例への対応：他施設で手術が困難とされた進行がんに対しても、薬物療法や放射線治療を組み合わせた集学的治療を提供し、治癒切除を目指しています。他臓器への浸潤がある場合や拡大手術が必要な症例では、他の診療科と連携し、合併切除や再建手術を実施しています。
- 機能温存への取り組み：頸部食道がんに対する喉頭温存術式、胃がん手術における胃温存や逆流防止術式、下部直腸がんに対する肛門温存手術など、最新の治療法を積極的に採用しています。患者さんの生活の質（QOL）を重視し、安全性とがん治療の効果のバランスを考えた手術を行っています。
- 高齢患者さんへの配慮：食道がんは70代、胃がんは80代での発症が多い疾患です。当院では、老年腫瘍科と協力し、75歳以上の患者さんにも適切な治療を提供できるよう、事前評価を徹底しています。高齢であることを理由に治療を制限せず、患者さん一人ひとりに最適な治療法を選択しています。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
森田 勝	杉山 雅彦	岩永 彩子	古賀 直道	木村 和恵
笠木 勇太	担当医	担当医		

再診

月	火	水	木	金
森田 勝	杉山 雅彦	岩永 彩子	古賀 直道	木村 和恵
笠木 勇太				

肝胆膵外科

診療科責任者



部長 杉町 圭史

○日本外科学会専門医・指導医
○日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
○ロボット支援肝切除術・膵切除術認定プロクター
○日本消化器病学会専門医・指導医
○日本胆道学会指導医

○日本消化器外科学会専門医・指導医
○日本内視鏡外科学会技術認定医
○日本肝臓学会専門医・指導医
○日本膵臓学会指導医
○日本がん治療認定医機構がん治療認定医

診療科スタッフ

医師

栗原 健

○日本外科学会専門医
○日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医
○日本肝臓学会専門医

医師

富野 高広

○日本外科学会専門医
○日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医
○日本肝臓学会専門医
○日本消化器病学会専門医
○日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

大西 恵美

○日本外科学会専門医
○日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医
○日本肝臓学会専門医

診療方針・特色

肝臓・胆道・膵臓領域のがん、胆膵の良性疾患に対して手術治療を行っています。当科では進行がん、難治性がん、高難度手術を担当していますが、丁寧に説明をして、何よりも患者さんご家族が安心して最適最善の治療を受けることができるように努めています。経験豊富で元気で明るい専門医師が診療を行います。

- 専門医による豊富な手術実績：肝胆膵領域の手術は難易度が高いため、病院選びには症例数の多さと専門医の在籍が一つの目安になります。当院は多くの肝胆膵領域のがんを扱っている、肝胆膵手術の high volume center です。日本肝胆膵外科学会により『高度技能専門医修練施設 A』に認定されています。
- 患者さんへの負担が少ない腹腔鏡手術・ロボット手術：手術の安全性とがんの根治性が損なわれない症例には低侵襲手術（腹腔鏡・ロボット手術）を積極的に行っています。当院は腹腔鏡下肝切除 / 膵切除、ロボット支援下肝切除 / 膵切除を保険診療で行うことができる認定専門施設です。
- がん専門病院の特色を活かしたグループ診療：外科、内科、放射線科など院内の緊密な連携を生かしたチーム医療をすべての患者さんに提供しています。毎週カンファレンスを行い、それぞれの患者さんに最適な治療方針を検討しています。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
休診日	休診日	休診日	杉町 圭史 富野 高広	杉町 圭史 栗原 健

再診

月	火	水	木	金
休診日	休診日	休診日	杉町 圭史 富野 高広	栗原 健

婦人科

診療科責任者



医長 有吉 和也

- 日本産科婦人科学会専門医・指導医
- 日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

診療科スタッフ

医長

島本 久美

- 日本産科婦人科学会専門医
- 日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

山口 真一郎

- 日本産科婦人科学会専門医
- 日本婦人科腫瘍学会専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医

医師

長山 利奈

- 日本産科婦人科学会専門医

医師

二尾 愛

- 日本産科婦人科学会専門医
- 日本婦人科腫瘍学会専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

吉田 優

- 日本産科婦人科学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本臨床細胞学会細胞診専門医

医師

蒼 綾乃

- 日本産科婦人科学会専門医

医師

岡留 雅夫

- 日本産科婦人科学会専門医・指導医
- 日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医
- 日本臨床細胞学会細胞診専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

診療方針・特色

当がんセンターの基本理念に沿って、患者さん・ご家族の気持ちを大事にして診療を行うことを第一の基本方針としています。スタッフは常勤医7名、非常勤医1名の8名で、診療はチーム医療を原則としています。患者さんに最適な治療を提供するためには、治療を選択する前に、各種がんの特徴を知り、組織学的特徴、がんの拡がりを的確に評価することが重要です。これらの評価に基づいて、カンファレンスを行って治療方針を決めています。一般的にがんの治療は患者さんの負担が大きな治療が多いのですが、早期がんに対する低侵襲手術（腹腔鏡手術、ロボット支援手術）にも取り組み、後遺症が少なく生活の質（QOL）を考慮した縮小・個別化した治療を行っています。一方で進行がんに対しては、生命予後改善のための手術、放射線治療、抗がん薬治療を組み合わせた集学的治療を多職種と連携しながら行い、治癒の可能性が高くなるように心がけています。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
島本 久美	休診日	有吉 和也	島本 久美	休診日
二尾 愛		吉田 優	山口 真一郎	
岡留 雅夫		蒼 綾乃	長山 利奈	

再診

月	火	水	木	金
島本 久美	休診日	有吉 和也	島本 久美	休診日
二尾 愛		吉田 優	山口 真一郎	
岡留 雅夫		蒼 綾乃	長山 利奈	

乳腺科

診療科責任者



部長 徳永 えり子

- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本乳癌学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医

診療科スタッフ

医師

古閑 知奈美

- 日本外科学会専門医
- 日本乳癌学会専門医
- マンモグラフィ読影認定医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

伊地知 秀樹

- 日本外科学会認定医・専門医・指導医
- 日本乳癌学会専門医
- 日本消化器外科学会専門医・指導医
- 日本肝臓学会専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

秋吉 清百合

- 日本外科学会専門医
- 日本乳癌学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- マンモグラフィ読影認定医

医師

厚井 裕三子

- 日本外科学会専門医
- 日本乳癌学会専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

田尻 和歌子

- 日本外科学会専門医
- 日本乳癌学会専門医
- マンモグラフィ読影認定医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

中村 吉昭

- 日本外科学会専門医
- 日本乳癌学会専門医
- 日本消化器外科学会認定医
- 日本がん治療認定医機構暫定教育医
- マンモグラフィ読影認定医

診療方針・特色

「病む人の気持ちを」、そしてご家族の気持ちを尊重し、温かく、思いやりある、最良のがん医療を目指すという当院の基本理念に沿った診療、そして、がん専門病院として、エビデンスに基づいた最善の治療、標準治療を行うことを基本方針としています。また、我が国の乳がんに関する医学・医療の発展に貢献するためにも、日常の臨床データの効果的な集積と解析、臨床研究を積極的に行っています。

世界においては、新規薬剤の開発が進み、悪性腫瘍の治療成績は向上してきています。世界に遅れをとらないためにも、国際的に実施される治験（グローバル試験）に日本も参加することが非常に重要となります。当科では、日本における迅速な新規薬剤の保険承認に貢献すべく、参加可能なグローバル試験に積極的に参加しています。

乳がんという疾患の特徴上、対象となる患者さんのほとんどは女性であり、乳房を扱う治療においては、精神的および外観的な面に関しても、十分配慮しております。

外来担当医師

初診

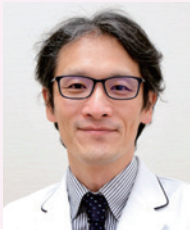
月	火	水	木	金
徳永 えり子	徳永 えり子	徳永 えり子	休診日	伊地知 秀樹
田尻 和歌子	秋吉 清百合	古閑 知奈美		厚井 裕三子
担当医	担当医	担当医		担当医

再診

月	火	水	木	金
徳永 えり子	徳永 えり子	徳永 えり子	休診日	古閑 知奈美
古閑 知奈美	古閑 知奈美	古閑 知奈美		伊地知 秀樹
伊地知 秀樹	伊地知 秀樹	中村 吉昭		秋吉 清百合
秋吉 清百合	秋吉 清百合			厚井 裕三子
厚井 裕三子	厚井 裕三子			田尻 和歌子
田尻 和歌子	田尻 和歌子			中村 吉昭
	中村 吉昭			

頭頸科

診療科責任者



部長 藤 賢史

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
- 日本頭頸部外科学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

診療科スタッフ

副院長

益田 宗幸

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
- 日本頭頸部外科学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

大森 裕文

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

医師

平野 雄介

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

医師

綿貫 裕介

医長

山内 盛泰

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
- 日本頭頸部外科学会専門医・指導医

医師

本郷 貴大

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

医師

原 大貴

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

医師

益永 拓也

診療方針・特色

頭頸部がんは発生する部位は、呼吸、摂食、嚥下、発声、構音、味覚、嗅覚などの、生きるため、社会生活を営むために必要な機能を司る臓器に発生します。整容的にも全身でもっとも露出され、舌が舌でも人目に触れる部位となります。頭頸部がん治療を行う場合には、がんの根治だけでなく、治療後の生活の質をいかに保つかが大きな課題となります。化学療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療が進んだ現在でも、頭頸部がんを完治に導く最良の治療が手術である事には変わりありません。複雑な解剖を持つ頸部・顔面深部・縦隔上部の手術に関しては詳細な解剖学的知識に加えて、3次元的な機能をイメージできる能力が必要です。一方で、形態温存のみならず、どのようにアプローチすれば最大限の機能が温存され、最終的な手術層がきれいになるかを予測する能力も要求されます。あらゆる外科手術の中で、最も職人的な経験と熟練の技が求められるアートな領域であると思っています。形成外科との連携のもと、合併症が少なく、機能温存も良好な手術治療を実践しています。頸部食道がんについては、他施設で喉頭を温存できないと言われた患者さんについても、多くの症例で喉頭温存手術を行い良好な成績を収めています。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
休診日	藤 賢史	休診日	益田 宗幸	山内 盛泰

再診

月	火	水	木	金
休診日	本郷 貴大	休診日	山内 盛泰	藤 賢史
	原 大貴		綿貫 裕介	大森 裕文
			益永 拓也	平野 雄介

泌尿器・後腹膜腫瘍科

診療科責任者



医長 根岸 孝仁

- 日本泌尿器科学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）
- 泌尿器ロボット支援手術プロクター（膀胱・前立腺）

診療科スタッフ

副院長

中村 元信

- 日本泌尿器科学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

辻田 次郎

- 日本泌尿器科学会（専門医）

医師

中島 新

医師

古林 伸紀

- 日本泌尿器科学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）
- 泌尿器ロボット支援手術プロクター（膀胱・前立腺）

医師

高山 梓

- 日本泌尿器科学会（専門医）
- 厚生労働省麻酔科標榜医

診療方針・特色

私たちはがん専門病院の努めとして、常に最新の知見、技術を導入して疾患や患者さんの状態に応じた最適な医療ができるように心がけています。手術についてはロボット支援手術から大きな腫瘍に対する開腹手術まで幅広い手術を行っており、豊富な手術症例の実績と知見を活かしてさらに高度かつ安全な手術を目指します。薬物療法については従来の抗がん薬に加えて免疫療法薬や遺伝子情報に基づくがんゲノム医療など、日々新たな治療が開発されていますので、常に最新の治療ができる環境を整えています。新たな治療の開発のために、新薬の治験や臨床試験にも積極的に取り組んでいます。

また九州唯一の「後腹膜腫瘍科」として後腹膜腫瘍診療に取り組んでいます。後腹膜腫瘍は治療が不要な良性腫瘍から癌や肉腫などの悪性腫瘍まで幅広い疾患を含みますが、複数の診療科と協力しながら後腹膜腫瘍の診断から治療まで行っています。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
根岸 孝仁	古林 伸紀	中村 元信	根岸 孝仁	古林 伸紀

再診

月	火	水	木	金
根岸 孝仁	根岸 孝仁	中村 元信	根岸 孝仁	古林 伸紀
	古林 伸紀		古林 伸紀	
	辻田 次郎		高山 梓	

整形外科

診療科責任者



医長 薛 宇孝

- 日本整形外科学会整形外科専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本整形外科学会認定骨軟部腫瘍医
- 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
- 日本整形外科学会認定スポーツ医

診療科スタッフ

医師

福島 俊

- 日本整形外科学会整形外科専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本整形外科学会認定骨軟部腫瘍医
- 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医

医師

久保田 聡

診療方針・特色

「骨・軟部腫瘍」は良性から悪性まで 100 種類以上の腫瘍を含みます。「肉腫（にくしゅ）」は患者さんの数が少ないまれながん（希少がん）であり、診断や治療が難しいといわれています。適切な診断と治療には整形外科以外の診療科とのチーム医療が必須です。当科では院内の連携だけでなく、大学病院・重粒子センターなど他の専門施設との連携、共同研究を通じて最適な治療ができるよう心がけています。

また、がん患者さんの運動器疾患、特に転移性骨腫瘍（骨転移）や骨粗鬆症による骨折などについても診療を行っています。がん患者さんの身体活動が制限されるような状態（がん口コモ）については、毎週行われる骨転移・肉腫カンサーボードなどで院内の各部署と連携し、がんの治療が円滑に継続できるようサポートしていきます。骨転移による脊髄麻痺で手術が必要となった場合は、脊椎の手術が可能な施設と連携をとって治療を行います。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
骨転移・がん 骨粗鬆症外来 (担当医)	福島 俊	休診日	休診日	薛 宇孝
	薛 宇孝			福島 俊

再診

月	火	水	木	金
骨転移・がん 骨粗鬆症外来 (担当医)	福島 俊	休診日	休診日	薛 宇孝
	薛 宇孝			福島 俊

形成外科

診療科責任者



医長 福島 淳一

- 日本形成外科学会専門医
- 日本耳鼻咽喉科学会専門医
- 再建・マイクロサージャリー分野指導医

診療科スタッフ

医師

嶋本 涼

- 日本形成外科学会専門医
- 日本耳鼻咽喉科学会専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医師

丸岡 潤平

診療方針・特色

形成外科の主な診療目的は、失われた機能および形態を回復することにあります。その対象疾患は、先天異常・外傷・腫瘍・整容など多岐にわたりますが、がんの専門医療施設である当院においては腫瘍と整容が主な診療領域となっています。腫瘍に関しては、がん切除後の再建、創部合併症の予防や治療などを行い、整容の面では切除後の拘縮（傷のひきつれ）や変形の治療、がん治療後のリンパ浮腫治療を通して、患者さんの機能的、形態的な苦痛を最小限にする努力をしています。

形成外科の治療は単独ではなく、がんを治療する各科と協力して診療を行うことでさらに多くの効果が期待できます。他科と積極的に協力し、さらに質の高い医療を患者さんに提供できるよう励んでいます。

外来担当医師

初診

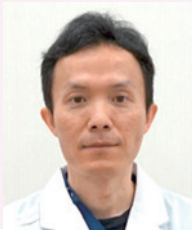
月	火	水	木	金
休診日	福島 淳一 嶋本 涼	休診日	—	休診日

再診

月	火	水	木	金
休診日	福島 淳一 嶋本 涼	休診日	福島 淳一 嶋本 涼	休診日

消化管・内視鏡科

診療科責任者



医長 宮坂 光俊

○日本医学放射線学会診断専門医・指導医
○日本消化器内視鏡学会専門医・指導医

診療科スタッフ

医師

村木 俊夫

○日本医学放射線学会診断専門医・指導医
○日本消化器内視鏡学会専門医

医師（画像診断科併任）

笠井 尚史

○日本医学放射線学会診断専門医

診療方針・特色

1. 検査

他院の内視鏡検査やCT検査などで異常を指摘され精密検査が必要と判断された方、検診で「要精密検査」と判定された方を主な対象者として、上部消化管検査（胃カメラ）や下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）、造影X線検査（透視）、大腸CT検査などを行っています。これらの検査を駆使して、がんの発見や進行度の評価、適切な治療方法の選択を行っています。

2. 治療

主に早期の消化管がんや大腸ポリープに対する内視鏡的切除術を行っています。内視鏡治療の最大の利点は治療に伴う身体的負担が少ないことです。しかしながら、消化管がんは、他臓器のがんと重複も多くみられることや、進行度や全身状態に応じて治療方法を検討する必要があることから、消化管外科や消化管腫瘍内科、頭頸科など、様々な診療科との緊密な連携を図りながら、患者さんにとって最も適切な治療が行えるように努めています。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
村木 俊夫	—	宮坂 光俊	—	笠井 尚史

再診

月	火	水	木	金
村木 俊夫	宮坂 光俊	宮坂 光俊	宮坂 光俊	笠井 尚史
	村木 俊夫		村木 俊夫	
	笠井 尚史		笠井 尚史	

皮膚腫瘍科

診療科責任者



医長 内 博史

- 日本皮膚科学会専門医
- 日本皮膚科学会悪性腫瘍指導専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本アレルギー学会専門医

診療科スタッフ

医師

和田 尚子

- 日本皮膚科学会専門医
- 日本皮膚科学会悪性腫瘍指導専門医

診療方針・特色

当科では皮膚がんの診療を専門に担当しています。社会の高齢化とともに皮膚がんは増加傾向にあり、最近の本邦における年間罹患数は 20,000 人を超えます。皮膚がんは全身の皮膚および粘膜のあらゆる部位から発生し、悪性黒色腫（メラノーマ）、有棘細胞がん、基底細胞がん、乳房外パジェット病、血管肉腫、メルケル細胞がん、隆起性皮膚線維肉腫などさまざまな種類があります。皮膚がんの種類によって大きく性質が異なり、治療法もそれぞれ異なります。皮膚がんの確定診断には生検（局所麻酔での組織検査）が必要ですが、その前段階としてダーモスコープという光学機械を用いた検査を行います。この検査は痛みを伴わず、ホクロと早期のメラノーマを見分ける場合のように、色のついた皮膚病変の診断に特に有用です。また CT や PET-CT などの画像診断や、がんの種類によってはセンチネルリンパ節生検を行い、進行度に応じた治療を行います。早期で小型の皮膚がんであれば、2～3 泊の短期入院や日帰りでの手術が可能です。病変が大きく皮弁や植皮による再建を必要とする場合や、リンパ節を含めた切除が必要な場合では 1～2 週間ほどの入院が必要です。手術ができない進行がんの場合は、化学療法、放射線療法、免疫療法を組み合わせた集学的な治療を行います。また日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）皮膚腫瘍グループに参加しており、各種臨床試験・治験を通して標準治療やエビデンスの構築を目指しています。

他の診療科で治療されているがん患者さんの、薬剤や放射線による皮膚障害のサポートも行います。

外来担当医師

初診・再診

月	火	水	木	金
内 博史	休診日	内 博史	休診日	内 博史

歯科口腔外科

診療科責任者



医長 福元 俊輔

- 日本口腔外科学会専門医
- 日本栄養治療学会認定歯科医
- 歯科医師臨床研修指導医

診療科スタッフ

医師

志渡澤 和奈

- 日本口腔外科学会認定医
- 日本有病者歯科医療学会認定医
- 日本栄養治療学会認定歯科医

診療方針・特色

歯科口腔外科では当院に入院中もしくは受診中の患者さんの全身状態を考慮しながら口腔管理を中心に診療を行っています。

口腔管理を行うことは、術後の肺炎予防や抗がん薬治療・放射線療法の際に頻発する口腔粘膜炎等の口腔有害事象の悪化予防に有用とされており、がん治療の完遂をサポートするとされています。

骨転移や骨粗鬆症の治療薬（デノスマブ等）は、歯性感染症や抜歯等に関連して顎骨壊死が発生することが知られており、顎骨壊死が発生すると QOL（生活の質）が低下しますので、がん治療を行う主診療科と連携し顎骨壊死の発生予防にも力を入れています。

当科では地域の歯科医院と連携・協力しながら、手術の際の術前からの口腔管理や、抗がん薬治療・放射線療法における入院前から退院後までの口腔管理を継続的に行う体制をとっています。そのため基本的に虫歯や義歯作製等のいわゆる一般歯科治療は地域歯科医院にお願いしています。

また一般外来患者さんの診療は行っておりませんので、ご理解いただけますと幸いです。

担当医師

院内紹介のみ

月	火	水	木	金
福元 俊輔	福元 俊輔	福元 俊輔	福元 俊輔	福元 俊輔
志渡澤 和奈	志渡澤 和奈	志渡澤 和奈	志渡澤 和奈	志渡澤 和奈

画像診断科

診療科責任者



部長 篠崎 賢治

○日本医学放射線学会診断専門医
○日本 IVR 学会専門医

診療科スタッフ

医長

澤本 博史

○日本医学放射線学会診断専門医
○日本核医学会専門医
○日本核医学会 PET 核医学認定医

医師

前原 純樹

○日本医学放射線学会診断専門医
○日本病理学会専門医（死体解剖資格）

医師

西岡 亜祐子

○マンモグラフィ読影認定医
○日本医学放射線学会診断専門医

医師（消化管・内視鏡科兼任）

笠井 尚史

○日本医学放射線学会放射線科専門医
○日本医学放射線学会診断専門医

医師

陣内 三佳子

○日本医学放射線学会診断専門医
○日本医学放射線学会研修指導者

医師

馬場 勇介

診療方針・特色

画像診断科は他科または他院からの依頼に基づいた業務を行っていますので、患者さんに直接お会いする機会は多くはないですが、画像の向こう側の患者さんを大切に思う気持ちを忘れず、よりよい医療のために励んでいます。また、診療各科や他院の先生方のニーズに答えるため、依頼情報をもとに適切な画像検査、治療を適切な条件で実施し、正確な診断結果を報告することを旨としています。

放射線治療科

診療科責任者



医長 國武 直信

○日本医学放射線学会放射線治療専門医・指導医

診療科スタッフ

医師

中島 孝彰

○日本医学放射線学会放射線治療専門医
○日本内科学会認定内科医

医師

吉満 凜吾

○放射線治療専門医

医師

阿部 円香

○日本医学放射線学会放射線治療専門医
○日本がん治療認定医機構がん治療認定医
○日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影医師

医師

上原 隆治

○日本医学放射線学会放射線治療専門医

診療方針・特色

当科では高精度放射線治療として、2008年に定位照射（いわゆるピンポイント照射）、2010年に強度変調放射線治療（IMRT）を開始しました。定位照射は原発性及び転移性の、脳・肺・肝・骨腫瘍に対して行い、強度変調放射線治療は前立腺、婦人科領域、頭頸部領域を中心に適応があるすべての疾患に対して治療を行っています。これらの治療法で、病変にはより治療効果が高い線量を投与しつつ、周囲の正常組織の被ばくを減らして治療することが可能となりました。これらの高精度放射線治療は、従来は根治を目標とした患者さんに対して施行する場合がほとんどでしたが、最近では緩和照射においても放射線治療の副作用を軽減する目的に適応とする場合も増えています。患者さんにとって最適な治療方法の選択を行うために、各診療科医師及び多職種で検討会を開いて治療方針を決定しています。

外来担当医師

初診

月	火	水	木	金
中島 孝彰	阿部 円香	國武 直信	吉満 凜吾	—

再診

月	火	水	木	金
國武 直信	中島 孝彰	吉満 凜吾	阿部 円香	担当医

緩和治療科

診療科責任者



医長 嶋本 正弥

診療科スタッフ

医師

大谷 弘行

日本緩和医療学会専門医

診療方針・特色

緩和医療とは、がん患者とその方を支えるご家族の身体と心の苦痛を和らげる医療です。

緩和治療科は、当院の基本理念“病む人の気持ち”、“家族の気持ち”を尊重し、がんと診断されて以後の積極的治療中に生じる諸症状（疼痛、悪心・嘔吐、呼吸困難など）の身体症状緩和に対して、診療科担当医や看護師など多職種医療従事者と連携しながら対応していくことを基本方針としています。

多職種から構成されている緩和ケアチームの中で、精神症状緩和を担当するサイコオンコロジー科と協働し身体的精神的苦痛症状の専門的緩和治療を行っています。

外来担当医師

緩和ケア外来（緩和治療科）

初診

月	火	水	木	金
		大谷 弘行	嶋本 正弥	嶋本 正弥

再診

月	火	水	木	金
		大谷 弘行	嶋本 正弥	嶋本 正弥

サイコオンコロジー科

診療科責任者



医師 三浦 章子

○精神保健指定医
○日本精神神経学会専門医・指導医

診療科スタッフ

医師

大島 彰

○日本心身医学会専門医

心理療法士

福田 乃依

○臨床心理士
○公認心理師

心理療法士

白石 恵子

○臨床心理士
○公認心理師

診療方針・特色

サイコオンコロジー（精神腫瘍学）は、がん医療における心の医学、心の緩和ケアともいわれます。

当科では、患者さんやそのご家族の心のケアを行うことによって、不安や気持ちの落ち込みなどを和らげ、安定した心の状態を維持し、自分らしい生活を送りながら、がん治療を続けていくサポートをさせていただきます。医師2名と心理療法士2名、計4名で診療を行っています。

がんによる様々なストレスにより生じる患者さんやご家族の気持ちのつらさに寄り添い、生活の質、生き方の質を高め、がんと自分らしく取り組めるように援助いたします。丁寧にお話を伺うとともに、必要に応じて薬物療法、カウンセリング、リラクゼーションなども行っています。入院中の患者さんの場合は、当院の緩和ケアチームと協働してサポートさせていただきます。お気軽にご相談ください。

外来担当医師

緩和ケア外来（サイコオンコロジー科）

初診

月	火	水	木	金
大島 彰	三浦 章子		三浦 章子	

再診

月	火	水	木	金
大島 彰	三浦 章子		三浦 章子	

腫瘍循環器科

診療科責任者



医師 河野 美穂子

○日本循環器学会専門医
○日本超音波医学会専門医・指導医

診療方針・特色

腫瘍循環器科は、心臓や血管の病気（心血管疾患）を併存したがん患者さんや、がん治療により心血管疾患を発症したがん患者さんの診療を行います。がん治療の進歩により、がんの治療成績はめざましく向上しています。長生きできる患者さんが増え、がんの治療期間が長期化する傾向にあります。また近年では複数のがん治療薬を組み合わせ治療することが多くなり、より心血管疾患のリスクが高くなっています。しかし心血管疾患のために有効ながん治療を中止・中断することは、がん患者さんにとっては大変つらいことです。腫瘍循環器科医の役割は、腫瘍の専門医と連携して適切な介入を行うことで心血管疾患の予防あるいは重症化を防ぎ、がんの治療を可能な限り継続・完遂できるようにサポートすることです。当院で可能な検査を駆使して、ポータブル心エコーを聴診器のように活用しながら診療に取り組んでいます。なお心臓カテーテル検査など侵襲的な検査・治療が必要な場合は、近隣の総合病院や大学病院に紹介いたします。

担当医師

院内紹介のみ

月	火	水	木	金
河野 美穂子	河野 美穂子	河野 美穂子	河野 美穂子	河野 美穂子

糖尿病・代謝科

診療科責任者



医師 工藤 佳奈

○日本内科学会 認定内科医
○日本糖尿病学会 専門医

診療科スタッフ

医師

池田 紀子

○日本内科学会 指導医・総合内科専門医・認定内科医
○日本糖尿病学会 研修指導医・専門医

診療方針・特色

当院では 2022 年 4 月から糖尿病・代謝科を開設して診療を開始しています。

糖尿病・代謝科では、当院に入院中、通院中の糖尿病を合併したがん患者さんや、当院での治療中や治療後に糖尿病を発症した患者さんの診療を行います。

がん治療の進歩、高齢化や生活習慣の変化により、がんと糖尿病を合併している患者さんは増加しています。また近年では、糖尿病とがんとの関連、免疫チェックポイント阻害薬等がん治療中の糖尿病の発症が認められています。

がん患者さんに寄り添った医療を提供し、安心してがん治療が受けられるように糖尿病診療の側面からサポートさせていただきたいと思っています。

基本的に院内他科からの紹介に対応しています。

地域の医院や病院、施設の先生方と連携・協力して、診療を行わせていただきたく思っております。ご支援・ご協力をお願い出来ると幸いです。

担当医師

院内紹介のみ

月	火	水	木	金
工藤 佳奈 池田 紀子	工藤 佳奈 池田 紀子	工藤 佳奈 池田 紀子	工藤 佳奈 池田 紀子	工藤 佳奈 池田 紀子

老年腫瘍科

診療科責任者



医師 西嶋 智洋

- 日本内科学会指導医・総合内科専門医・認定内科医
- 日本老年医学会指導医・老年科専門医
- 米国内科専門医
- 米国血液内科専門医
- 米国腫瘍内科専門医
- 米国老年医学専門医

診療科スタッフ

医師

有水 耕平

○日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医

診療方針・特色

2018年9月に日本の病院で初めて老年腫瘍科を開設しました。米国で老年医学と腫瘍内科の専門医を取得した高齢者のがん医療の専門医（老年腫瘍医）が診療しています。

がん治療には手術、放射線、抗がん剤、緩和などがありますが、どの治療が相応しいかは、治療効果、安全性、患者さんの価値観を考慮して、個々の患者さんにあった治療法を選択することが重要です。がんの治癒、延命や症状緩和などを目指して治療をおこないますが、治療やその副作用・合併症が体にストレスとなり日常生活機能や生活の質を落とす患者さんも見られます。特に高齢者では、患者さんごとに副作用や合併症の危険性、そしてどの程度の強度の治療に耐えられるかが異なります。

当科では、高齢者総合的機能評価（CGA）を用いて一人一人にあったがん治療を選択すること、さらに多職種と連携して日常生活機能や生活の質を維持／改善を目指しています。

担当医師

院内紹介のみ

月	火	水	木	金
西嶋 智洋 (第2,4週)	西嶋 智洋	西嶋 智洋	西嶋 智洋	西嶋 智洋

麻酔科

診療科責任者



医長 秋吉 浩美

- 日本専門医機構認定麻酔科専門医
- 厚生労働省麻酔科標榜医

診療科スタッフ

医師

小林 祐紀子

- 日本専門医機構認定麻酔科専門医
- 厚生労働省麻酔科標榜医

医師

石田 祐貴

医師

仲里 悠希

医師

江口 碧

医師

柴尾 真利奈

医師

西宮 潤一

医師

小河原 利帆子

- 日本麻酔科学会指導医
- 日本専門医機構認定麻酔科専門医
- 厚生労働省麻酔科標榜医

診療方針・特色

当院手術部では常勤医師7人と非常勤医師1人の8人、手術室専任の看護師29人と看護助手2人が勤務しています。

各科と共に手術前から手術後までの患者管理を行い、患者さんが安心して安全に手術を受けられるように努めています。

この3年間では手術総数は年間2500例以上であり、麻酔科管理症例数は年間2100例以上あります。

病理診断科

診療科責任者



部長 田口 健一

- 日本病理学会専門医・指導医・分子病理専門医
- 日本臨床細胞学会専門医・指導医・教育研修指導医
- 日本臨床検査医学会臨床検査管理医

診療科スタッフ

医長

古賀 裕

- 日本病理学会専門医・指導医・分子病理専門医
- 日本臨床細胞学会専門医・指導医

医師

杉井 梓

- 日本病理学会口腔病理専門医
- 日本臨床細胞学会専門歯科医

医師

秋山 優里

医師

太田 かおり

診療方針・特色

病理診断科の主たる業務は病理組織診断、細胞診断、剖検診断で、毎日の臨床各科とのカンファレンスに特に重点を置いています。

病理診断科のミッションは「がん診療における医療の質向上のための問題解決型病理の実践」です。各診療科において日々の診療の中でいろんな疑問や問題が発生すると思います。その疑問や問題が病理に関するものであれば積極的に協力します。それらを重要性・緊急性の高いものから一つ一つエビデンスを創出しつつ問題解決を図り、医療の質、特にがん診療の質向上を目指します。

基本方針は当センターの基本理念「病む人の気持ちを」に沿い、患者・家族・臨床の先生方の要望に適うよう正確かつ迅速に病理診断の実施・報告を行っていくことです。更にそれらのシステム整備・精度管理に努めてまいります。加えてエビデンスのある診療に有用な新規技術の情報収集・情報提供・導入・フィードバック等を行いながら、診療及び学術研究推進・支援を行います。

臨床検査科

診療科責任者



医長 田口 健一

○日本臨床検査医学会臨床検査管理医

診療科スタッフ

医師

工藤 佳奈

○日本内科学会認定医

○日本糖尿病学会専門医

診療方針・特色

九州がんセンター臨床検査科・病理診断科は、2017年12月7日にISO15189認定を取得しました。

この認定は、検体採取から検査報告までの一連の業務が国際標準規格を満たしていることを示すものです。当科は血液・凝固検査室、輸血管理室、生化学・免疫・一般検査室、生理検査室、微生物検査室、病理細胞診検査室で構成され、診療支援部門として重要な役割を担っています。

基本理念「病む人の気持ちを」に基づき、正確かつ迅速な検査の実施・報告を行うとともに、システム整備・精度管理の向上に努めています。また、臨床医へのコンサルテーションや新規検査の情報提供など、新たなニーズとエビデンスの創出を目指しています。

運営方針として、「高品質高採算」「応える」「ヒトにやさしい」「見える」「新しい技術をつくる」の5つのビジョンを掲げ、がん撲滅に貢献する検査業務のプロフェッショナル集団を目指しています。

リハビリテーション科

診療科責任者



医長 薛 宇孝

- 日本整形外科学会整形外科専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本整形外科学会認定骨軟部腫瘍医
- 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
- 日本整形外科学会認定スポーツ医

診療科スタッフ

理学療法士

作業療法士

言語聴覚士

診療方針・特色

当院のリハビリテーション科はリハビリテーション科医長（整形外科医長兼任）の下、理学療法士6名、作業療法士1名、言語聴覚士1名が在籍しております。

「がん」そのものによる痛みや食欲低下、だるさ、息苦しさによって動けなくなって寝たきりになったり、手術や抗がん剤治療、放射線治療などによって身体の機能が損なわれたりすることがあります。「がん」に対する入院治療の継続、治療後の社会復帰のために医師の指示のもとリハビリテーションを展開しております。

リハビリテーションでは患者さんの生活を総合的に考慮して、入院中の訓練だけでなく自宅の環境設定や介護のアドバイス、社会資源の導入などを多職種と協働して行います。

患者さんの生活の質が改善・向上することをスタッフ一同切に願いながら、専門的な知識や経験を生かして診療を行っています。

九州がんセンター連携・協力施設について

当院では特に緊密な連携を行っているご施設と協定を結ばせていただき、「九州がんセンター連携・協力施設」として登録させていただいています。

「九州がんセンター連携・協力施設」には「連携・協力施設証」を発行し、当院1階の「患者・家族支援センター」入り口前に一覧を掲示させていただいています。



機能・学会等認定施設取得一覧

No	認定団体名	認定内容
1	日本 HTLV-1 学会	日本 HTLV-1 学会認定登録医療機関
2	日本骨髄バンク、日本造血・免疫細胞療法学会	非血縁者間骨髄採取認定施設
3	日本造血・免疫細胞療法学会	非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科（血液・細胞治療科） - 認定カテゴリー 3
4	日本造血・免疫細胞療法学会	非血縁者間造血幹細胞移植 LVC 診療科（小児・思春期腫瘍科） - 認定カテゴリー 3
5	日本血液学会	日本血液学会認定専門研修認定施設（血液・細胞治療科）
6	日本血液学会	日本血液学会認定専門研修認定施設（小児・思春期腫瘍科）
7	日本小児血液・がん学会	小児血液・がん専門医関連研修施設（認定研修施設：九州大学病院） （小児科）
8	九州大学病院 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会	九州・沖縄ブロック小児がん連携病院（類型 1-A） （拠点施設：九州大学病院）
9	日本内科学会	浜の町病院内科専門研修プログラム（連携施設）
10	日本内科学会	福岡赤十字病院内科専門研修プログラム（連携施設）
11	日本内科学会	九州中央病院内科専門研修プログラム（連携施設）
12	日本内科学会	福岡徳洲会病院総合内科専門研修プログラム（連携施設）
13	日本内科学会	北九州市立医療センター内科専門研修プログラム（連携施設）
14	日本内科学会	九州大学病院内科専門研修プログラム（連携施設）
15	日本内科学会	福岡東医療センター内科専門研修プログラム（連携施設）
16	日本内科学会	九州医療センター内科専門医研修プログラム（連携施設）
17	日本消化器病学会	日本消化器病学会専門医制度認定施設
18	日本肝臓学会	日本肝臓学会認定施設
19	日本膵臓学会	日本膵臓学会認定指導施設
20	日本肝胆膵外科学会	日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設 A
21	日本消化器外科学会	日本消化器外科学会連携施設（腹腔鏡下肝切除術）
22	日本消化器外科学会	日本消化器外科学会連携施設（腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術）
23	日本胆道学会	日本胆道学会認定指導医制度指導施設
24	日本消化器外科学会	日本消化器外科学会専門医修練施設
25	日本外科学会	日本外科学会外科専門医制度修練施設
26	日本胃癌学会	日本胃癌学会認定施設 A
27	日本食道学会	日本食道学会食道外科専門医認定施設
28	日本気管食道科学会	日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設（外科食道系）
29	日本呼吸器学会	呼吸器内科領域専門研修制度 特別連携施設 （プログラム基幹施設：九州大学病院）
30	呼吸器外科専門医合同委員会	呼吸器外科専門医制度専門研修連携施設 （基幹施設：九州医療センター）
31	日本泌尿器科学会	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
32	福岡市泌尿器科医会 前立腺がん検診委員会	福岡市前立腺がん検診精密検査実施医療機関
33	日本婦人科腫瘍学会	日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
34	日本産科婦人科学会	九州大学産婦人科研修プログラム連携施設
35	日本頭頸部外科学会	日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医制度指定研修施設
36	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	九州大学耳鼻咽喉科専門研修プログラム連携施設 （基幹施設：九州大学病院）

No	認定団体名	認定内容
37	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	福岡大学病院耳鼻咽喉科研修プログラム連携施設 (基幹施設：福岡大学病院)
38	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	久留米大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門研修プログラム 連携施設 (基幹施設：久留米大学病院)
39	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	鹿児島大学耳鼻咽喉科専門研修プログラム 連携施設 (基幹施設：鹿児島大学病院)
40	日本整形外科学会	日本整形外科学会専門医制度研修施設
41	日本麻酔科学会	日本麻酔科学会麻酔科認定研修施設
42	日本形成外科学会	九州大学病院形成外科研修プログラム連携施設
43	日本形成外科学会	美ら島形成外科研修プログラム相互連携施設 (基幹施設：南部医療センター・こども医療センター)
44	日本皮膚科学会	日本皮膚科学会認定専門医研修施設 (主研修施設：九州大学病院)
45	日本乳癌学会	日本乳癌学会専門医制度認定施設
46	日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会	エキスパンダー実施施設 (一次再建、二次再建)
47	日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会	インプラント実施施設 (一次一期再建、一次二期再建、二次再建)
48	日本乳癌学会	日本乳癌学会乳腺専門研修カリキュラム基幹施設
49	日本乳癌学会	日本乳癌学会乳腺専門研修カリキュラム連携施設 (基幹施設：九州大学病院)
50	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ検診 施設・画像認定
51	日本診療放射線技師会	日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設
52	日本医学放射線学会	日本医学放射線学会認定放射線科専門医総合修練機関 (画像診断・IVR 部門、核医学部門、放射線治療部門)
53	日本医学放射線学会	日本医学放射線学会認定画像診断管理認証施設 (MRI 安全管理に関する事項)
54	日本放射線腫瘍学会	日本放射線腫瘍学会認定施設
55	日本消化器内視鏡学会	日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設
56	日本インターベンショナルラジオロジー学会	日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設
57	日本病理学会	日本病理学会研修登録施設 (認定施設：九州大学病院)
58	日本臨床腫瘍学会	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 (基幹施設)
59	日本臨床細胞学会	日本臨床細胞学会認定施設
60	日本臨床細胞学会	日本臨床細胞学会教育研修施設
61	公益財団法人 日本適合性認定協会	臨床検査室 (ISO 15189) 認定施設 (臨床検査科・病理診断科)
62	日本医療薬学会	医療薬学専門薬剤師研修施設 (基幹施設)
63	日本医療薬学会	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
64	日本医療薬学会	日本医療薬学会地域薬学ケア専門薬剤師研修施設 (基幹施設)
65	日本緩和医療薬学会	緩和医療専門薬剤師研修施設
66	日本臨床腫瘍薬学会	日本臨床腫瘍薬学会認定がん診療病院連携研修病院
67	日本臨床栄養代謝学会	日本臨床栄養代謝学会・NST (栄養サポートチーム) 稼働施設
68	日本遺伝性腫瘍学会	日本遺伝性腫瘍学会認定遺伝性腫瘍研修施設
69	日本がん治療認定医機構	日本がん治療認定医機構認定研修施設
70	日本医療機能評価機構	日本医療機能評価機構認定病院
71	厚生労働省	都道府県がん診療連携拠点病院
72	厚生労働省	特定行為研修指定研修機関 (腹腔ドレーン管理関連、創部ドレーン管理関連、栄養及び水分 管理に係る薬剤投与関連、感染に係る薬剤投与関連、術後疼痛管 理関連)
73	国立研究開発法人国立がん研究センター	国立がん研究センター認定がん相談支援センター

国立病院機構 九州がんセンター シンボルマーク



シンボルマークの意味

- 青 – 平和・信頼
- 緑 – 生命・安心
- ピンク – 幸福・愛情
- 3つの輪 – 臨床・研究・教育
- 2つの枝 – 医療者が患者によりそう

NKCC : National hospital organization Kyushu Cancer Center



NHO Kyushu Cancer Center 診療のご案内 2025



独立行政法人国立病院機構
九州がんセンター

2025 年 5 月

発行

独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター
〒811-1395 福岡市南区野多目 3-1-1
TEL 092-541-3231 (代表①)
TEL 092-557-6100 (代表②)
FAX 092-551-4585
<https://kyushu-cc.hosp.go.jp/>

制作

株式会社 陽文社
TEL 092-412-7331
FAX 092-412-7332
<http://www.youbunsha.co.jp/>

The background of the top half of the page is white, featuring large, flowing, wavy lines in various shades of red and pink that sweep across the frame from the top left towards the bottom right.

NHO Kyushu
Cancer Center

診療のご案内

2025

